

第4章 明日へつなぐ

1 ジュニア・サミット

ジュニア・サミットは、2005年のG8グレンイーグルス・サミット（英国）から開始された青少年のサミットで、各国の代表チームが、首脳会議と関連する議題について討議し、成果文書を作成するプログラムである。2010年以降中断していたが、2015年のG7エルマウ・サミット（ドイツ）の機会に再開された。

(1) ジュニア・サミットの開催誘致・決定

平成27年8月5日（水）、鈴木知事から中山外務副大臣に対し、三重県でのジュニア・サミットの開催を強く要望するとともに、県内の複数自治体から会場受入の意向があり、県・市町一体となって開催に臨む機運が高まっていることを説明した。

また、9月17日（木）には、伊勢志摩サミット三重県民会議事務総長から外務省大臣官房人物交流室長に提案書を手交し、①開催日程については、討議に資する視察や県内分散型の体験・交流プランを含む9日間とすること。②討議については、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～」をテーマとし、環境保全と経済成長を両立し、健全な環境を次世代に継承し、持続的な発展をする方策について議論いただきたいこと。③討議前に、三重県ならではの討議テーマに関する視察を行い、環境・産業技術、自然との共生、地域資源を活用した地域ビジネスの観点等を学び、実りある議論をしていただきたいことを要望した。

10月27日（火）、外務省飯倉公館で開催された外務省及び三重県共催の「伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～」にて、岸田外務大臣から、G7各国の高校生によるジュニア・サミットを、平成28年4月22日（金）から、桑名市を主会場とし、県内各地で視察、交流イベントを行う形で開催することが発表された。

これを受け、平成27年12月25日（金）、県民会議事務総長から改めて外務省大臣官房人物交流室長に、ジュニア・サミット参加者に美しい自然や豊かな伝統・文化など、三重の魅力を体験・体感していただくため、県内分散型の体験・交流プラン及び三重ならではの歓迎交流行事について提案を行った。同日、外務省大臣官房人物交流室長から主会場をナガシマリゾートに決定した旨発表があった。

平成28年2月24日（水）、三重県から提案していた討議に資する視察及び県内各地分散型の体験・交流行事の訪問先について外務省による決定があり、視察については、「赤須賀漁業協同組合」、「四日市公害と環境未来館」、「NTN株式会社先端技術研究所」の3施設を、また、県内分散型体験・交流行事については、4コースに分かれ、県内10ヶ所を訪問する旨発表があった。

(2) 「2016年ジュニア・サミットin三重」の概要

2016年伊勢志摩サミットの関連行事として、G7各国から15～18才の若者28名が集まり、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～」をメインテーマとして議論を行い、その結果を、成果文書『桑名ジュニア・コミュニケ』にとりまとめ、安倍総理に提出した。

また、県民会議では、開催期間中、体験・交流行事など、ジュニア・サミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達と交流する行事を企画・実施した。

開催期間：平成28年4月22日（金）から28日（木）まで

場 所：桑名市を主会場とし、県内各地、東京都での視察を実施

＜主会場 ナガシマリゾート（桑名市長島町浦安）＞

参 加 者：G7各国からの15～18才の青少年、各国男女2名の計28名

（付添人 G7各国から1名、日本のみ2名）

議 題：メインテーマ

「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」

サブテーマ

①環境保護と経済成長の共生

②より良い社会とより良い世界に向けて

ワーキンググループテーマ

①気候変動と脱炭素化

②経済格差と包括的経済成長

③人材育成

④ジェンダーによる格差の克服

主 催：外務省

共 催：伊勢志摩サミット三重県民会議

特別協力：公益財団法人イオン1%クラブ

【日 程】

日付	時間	内容	会場	備考
4月21日(木)		G7各国代表参加者三重県到着		
	18:00-19:00	ブリーフィング	ナガシマリゾート（ホテルナガシマ）	
4月22日(金)	9:30-10:00	開会式	ナガシマリゾート（ホテル花水木）	
	10:30-12:00	オリエンテーション		
	13:30-18:30	第一セッション		
4月23日(土)	9:00-12:00	第二セッション	ナガシマリゾート（ホテル花水木）	
	13:30-17:45	討議に資する視察	赤須賀漁業協同組合	
			四日市公害と環境未来館	
			NTN株式会社先端技術研究所	
18:15-20:05	桑名市交流行事	ナガシマリゾート（なばなの里）	ジュニア・サミット桑名市民会議事業	
4月24日(日)	9:00-12:00	第三セッション	ナガシマリゾート（ホテル花水木）	
	13:30-17:00	第四セッション		
4月25日(月)	9:00-17:00	体験・交流行事	Aコース（御在所ロープウェイ、鈴鹿サーキット、関宿）	県民会議事業
			Bコース（深野だんだん田、まごの店、一身田寺内町専修寺）	
			Cコース（伊賀流忍者博物館、赤目四十八滝）	
			Dコース（伊勢神宮、いつきのみや歴史体験館）	

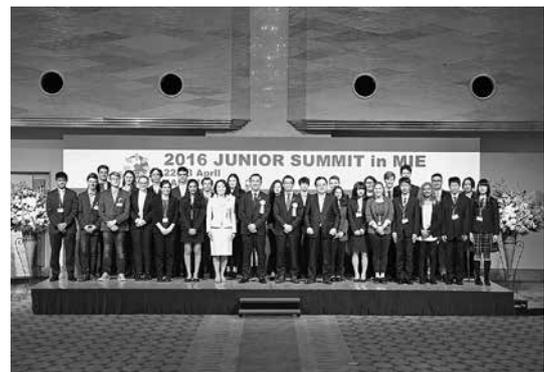
日付	時間	内容	会場	備考
4月26日(火)	9:00-10:30	第五セッション	ナガシマリゾート(ホテル花水木)	
	11:00-12:00	成果発表		
	12:00-14:00	三重県送別ランチ		
	14:30-	東京へ移動		
4月27日(水) (東京日程)	12:00-16:00	学校体験プログラム	筑波大学附属高等学校	
	17:35-17:55	総理表敬訪問	首相官邸	
4月28日(木) (東京日程)	10:10-11:10	東京湾クルーズ		
	11:30-12:00	寿司体験	ホテルニューオータニ東京	
	13:30-16:00	東京都内視察	①浅草 ②秋葉原 ③原宿	
	18:30-20:00	送別レセプション	ホテルニューオータニ東京	
4月29日(金) (東京日程)		帰国		

(3) 主な行事

【開会式】

4月22日(金)9時30分から、ホテル花水木「花翠の間」において、開会式が行われた。開会式では、山田外務大臣政務官による主催者挨拶に続き、共催者として県民会議会長の鈴木知事が挨拶を行った。

また参加者紹介の後、参加者を代表し日本代表参加者が決意表明を行った。



開会式での記念撮影※

【討議】

4月22日(金)から24日(日)にかけて、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」をメインテーマに、集中して議論が行われた。参加者は、以下の4つのテーマごとに分科会形式で議論を行い、その結果を成果文書『桑名ジュニア・コミュニケ』にとりまとめた。

①気候変動と脱炭素化

気候変動に起因する様々な課題を解決するために、炭素税、排出量取引制度を活用したカーボン・プライシングを促進すること、再生可能エネルギー発電を推奨することの重要性が強調された。また、都市部のインフラ開発を通じた温室効果ガスの低減についても触れられ、諸取組の実現に向けた日本のリーダーシップに期待する旨の議論がなされた。

②経済格差と包括的経済成長

先進国と発展途上国の格差是正を図るためにどのような対策が可能か議論された。この観点から、先進国から途上国への技術移転に着目し、先進国の企業に対する技術移転を促すためのインセンティブの付与の可能性等について提案された。また汚職と租税回避の課題も取り上げられ、制度改革を通じた対策が必要との提案がなされた。

③人材育成

すべての子ども達の初等・中等教育へのアクセスを可能にすることを念頭に、教育の質向上のための国際的な連携や、教育インフラ、教師のレベルの向上、先進国と途上国間の学校単位でのノウハウの共有を促す制度について提案がなされた。

④ジェンダーによる格差の克服

日本がリーダーシップを発揮している女性のエンパワーメントの分野について、女性の社会進出を促すために、企業の働きやすさを採点形式で可視化していくことや、途上国においては基本的な女子教育の底上げを図るために、経済的支援も含めた制度設計をしていくことなどが提案された。

【討議に資する視察】

4月23日（土）午後、メインテーマ「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」に基づき、環境保全と経済成長を両立し、健全な環境を次世代に継承し、持続可能な発展をする方策について議論するため、参加者が、次の3施設を視察した。

①赤須賀漁業協同組合

漁業者から、自然資源を持続的に利用するための干潟の環境調査や稚貝放流、漁獲量の制限等の取組について説明を受けた。

②四日市公害と環境未来館

県立四日市高等学校の生徒や四日市公害と環境未来館職員、公益財団法人国際環境技術移転センター（ICETT）職員から、四日市公害の歴史や教訓を通じた産業発展と環境保全を両立したまちづくりや環境保全技術の海外移転等の取組について説明を受けた。

③NTN株式会社先端技術研究所

二酸化炭素発生の削減や低炭素化社会実現のための自然エネルギー循環型モデルや省エネルギー技術の取組を伺い、グリーンパワーパークを視察した。



赤須賀漁業協同組合の視察



四日市公害と環境未来館の視察*



NTN（株）先端技術研究所の視察*

【桑名市交流行事「KUWANA NIGHT」】

4月23日（土）夜、ジュニア・サミット桑名市民会議が主催する交流行事「KUWANA NIGHT」がナガシマリゾート・なばなの里で実施され、約2,000名の桑名市民が出迎える中、参加者は、桑名石取祭の祭車の見学や、太鼓や鉦の打ち鳴らしを体験するとともに、ハマグリ等のバーベキュー料理、ベゴニアガーデンやイルミネーションの見学を楽しんだ。



桑名石取祭の祭車見学*

【体験・交流行事】

4月25日（月）、ジュニア・サミット参加者が、県内4コースに分散して各地を訪れ、三重の美しい自然や豊かな伝統・文化等を体験・体感するとともに、県民との交流を深めた。

当日、県内高校生が各コース7名が参加し、各訪問先を案内するとともに、バス移動時間等を利用し交流を深めた。

《Aコース》

①御在所ロープウェイ（菟野町）

ロープウェイで伊勢平野や御在所岳を眺める空中散歩を楽しむとともに、山上公園では、雄大な展望と自然を楽しみながら散策した。

②鈴鹿サーキット（鈴鹿市）

私立鈴鹿高等学校書道部の生徒による鈴鹿墨を用いた書道パフォーマンスの披露の後、伊勢形紙彫刻体験を行った。国際レーシングコースでの最先端EVマシン「サーキットチャレンジャー」の運転体験、マーシャルカーに同乗してのコース走行、バイクのデモレースの見学を行った。

③関宿（亀山市）

ボランティアの案内で関宿を散策し、「関の山車」保存会の子どもたちによる祭り囃子演奏や、亀山紅茶とお菓子によるおもてなしを受け日本の歴史文化に触れながら、地元小中学生や地域住民と交流した。

《Bコース》

①深野だんだん田（松阪市）

日本棚田百選に選ばれている「深野だんだん田」を見学し、伝統的な土木工学技術や棚田の機能を学ぶとともに、松阪牛肥育農家を見学し、松阪牛にブラッシングをしたり、触れたりする体験を行った。

②まごの店（多気町）

県立特別支援学校玉城わかば学園生徒の太鼓演奏による歓迎を受けた後、県立相可高等学校食物調理科の生徒とだし巻き卵や巻き寿司、鰹節削りの体験を行うとともに、食物調理科の生徒が作った昼食を楽しみながら交流した。

③一身田寺内町 専修寺（津市）

国の重要文化財に指定されている専修寺内の御影堂を見学するとともに、庭園・雲幽園内を散策し、茶室・安楽庵を見学した。

《Cコース》

①伊賀流忍者博物館（伊賀市）

忍者衣装に着替えて、伊賀上野城の高石垣や上野公園を散策した後、忍者屋敷で様々なからくりを見学した。また、迫力ある忍者ショーを見学し、手裏剣打ち体験も行った。

②赤目四十八滝（名張市）

不動滝、千手滝、布曳滝を見学しながら溪谷内を散策するとともに、日本サンショウウオセンターでは、サンショウウオについて飼育員から説明を受けた後、実際にサンショウウオに触れる体験を行った。

《Dコース》

①伊勢神宮（伊勢市）

式年遷宮記念せんぐう館で、式年遷宮を通じて伝えられてきた日本の伝統的精神文化を学ぶとともに、伊勢神宮（内宮）では、神宮の持つ荘厳で凜とした空気を体感した。

②いつきのみや歴史体験館（明和町）

さいくう平安の杜の復元建物を見学し、いつきのみや歴史体験館にて、平安装束の試着や盤すごろく等、平安時代の遊びを体験した。



Aコース（御在所岳）



Bコース（まごの店）



Cコース（伊賀流忍者博物館）



Dコース（いつきのみや歴史体験館）

【成果発表・三重県送別ランチレセプション】

4月26日（火）11時から、ホテル花水木「花翠の間」において、総理夫人が臨席する中、ジュニア・サミット参加者による成果発表として『桑名ジュニア・コミュニケ』が発表された。4つのサブテーマごとに、各国からの参加者が発表し、日本代表参加者が日本語で概要を述べた。

（『桑名ジュニア・コミュニケ』はP 404参照。）

成果発表後、三重県送別ランチレセプションが行われ、県立白子高等学校吹奏楽部による演奏の後、参加者と招待者が交流を図った。



成果発表

【総理表敬訪問】

4月27日（水）17時半過ぎから首相官邸において、ジュニア・サミット参加者らが、安倍総理を表敬訪問し、『桑名ジュニア・コミュニケ』を提出するとともに、議論の成果及び滞在中の感想などを報告した。



各国代表による総理表敬訪問*

【送別レセプション】

4月28日(木)18時30分から都内ホテルにて送別レセプションが行われた。このレセプションをもってすべての公式プログラムが終了し、「2016年ジュニア・サミット in 三重」が閉幕した。



送別レセプションでの集合写真

(4) ジュニア・サミットへの県民参加**【県内の中・高校生等の参加】**

県民会議では、サミットの開催を一過性のものとせず開催の経験を「明日へつなぐ」ため、今回のジュニア・サミットに、一人でも多くの次代を担う子どもたちが参加する機会を設ける取組を展開した。

①日本代表参加者 県内高校生4名

②討議に資する視察及び県内分散型体験・交流行事への参加(案内・交流)

- ・討議に資する視察⇒県立四日市高等学校 9名
- ・県内分散型体験・交流行事⇒各地域の高校生(4コース×7名)28名

Aコース

県立桑名高等学校1名、県立川越高等学校1名、県立四日市高等学校1名、県立四日市南高等学校1名、私立暁中学校・高等学校1名、私立海星高等学校1名、私立鈴鹿中学校・高等学校1名

Bコース

県立津高等学校1名、県立津西高等学校1名、県立松阪高等学校1名、県立相可高等学校1名、私立高田高等学校1名、私立セントヨゼフ女子学園高等学校1名、私立三重高等学校1名

Cコース

県立上野高等学校2名、県立名張桔梗丘高等学校1名、県立名張高等学校1名、県立名張西高等学校1名、私立青山高等学校1名、私立桜丘高等学校1名

Dコース

県立宇治山田商業高等学校3名、県立伊勢高等学校3名、私立皇學館高等学校1名

③おもてなし

- ・県内農業高校等による花のプランターづくり(180個)
 - 県立四日市農芸高等学校、県立久居農林高等学校、県立相可高等学校、
 - 県立伊賀白鳳高等学校、県立明野高等学校、私立愛農学園農業高等学校 141名
- ・開催日程中のハンドベル演奏
 - 私立セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校 32名
- ・県内分散型体験・交流行事でのおもてなし
 - 鈴鹿墨のパフォーマンス 私立鈴鹿高等学校書道部 14名
 - まごの店での昼食のふるまい 県立相可高等学校食物調理科 19名
 - 太鼓演奏 県立特別支援学校玉城わかば学園 31名
 - 歓迎 亀山市立関中学校 9名、松阪市立柿野小学校 21名
 - 多気町立西外城田保育園 19名、多気町立佐奈保育園 22名

県立上野高等学校 40名、明和町立みどり保育所 30名

お囃子演奏 亀山市立関小学校 17名

・送別ランチレセプション吹奏楽演奏等 県立白子高等学校吹奏楽部30名

スタンド花作成 県立久居農林高等学校 3名

・参加者用名札（伊賀くみひも）の作成

県立杉の子特別支援学校石薬師分校、県立特別支援学校伊賀つばさ学園 19名

・土産品 マイ箸袋（さをり織り）の作成

県立稲葉特別支援学校、県立特別支援学校西日野にじ学園 25名

・ウェルカムメッセージの作成（開発したまごころ商品とともに）

県立相可高等学校生産経済科 5名（協賛：万協製薬株式会社）

【県民の参加】

分散型体験・交流行事での各地案内やおもてなし、交流や、討議・宿泊会場におけるサポートデスク設置（看護師・臨床心理士、通訳ボランティアの配置、将棋体験などリフレッシュコーナーの設置）等、県民や企業、団体の参加・協力を得て実施した。



県内農業高校生による
花のプランターづくり



県立白子高等学校生による送別ランチ
レセプションでの吹奏楽演奏



サポートデスクの様子（将棋体験）

（5） 日本代表参加者の選考及び事前研修

日本代表参加者については、外務省から三重県に対し、代表4名を選出するよう依頼があった。三重県教育委員会及び三重県環境生活部において広く公募したうえで平成27年12月に選考会を実施し、男女2名ずつ、計4名を選考するとともに、県民会議において、平成28年1月から4月まで、全7回の事前研修を実施した。

【日本代表参加者】

- ・稲葉 陽樹さん 県立津高等学校 3年生 津市在住
- ・加藤 杏弥さん 県立川越高等学校 3年生 四日市市在住
- ・上堀内 陸王さん 私立東海高等学校（愛知県）2年生 桑名市在住
- ・藤山 春衣さん 県立四日市高等学校 3年生 四日市市在住

【事前研修】

- ①オリエンテーション・事前トレーニングⅠ（英語）
1月23日（土）9:30-12:30
- ②事前トレーニングⅡ（環境）
1月30日（土）13:00-17:00
- ③事前トレーニングⅢ（英語）
2月6日（土）9:30-12:30
- ④事前トレーニングⅣ（環境）
2月13日（土）10:00-16:00 フィールドワーク
- ⑤事前トレーニングⅤ（英語）
3月12日（土）9:30-12:30
- ⑥事前トレーニングⅥ（環境）※一部環境省と共催
3月19日（土）9:30-15:00
3月20日（日）8:45-16:40 フィールドワーク
- ⑦事前トレーニングⅦ（英語）
4月9日（土）9:30-12:30



日本代表による知事表敬訪問



事前トレーニングの様子

（6） 桑名市の取組**【市民会議の設立】**

開催地の桑名市においては、平成27年12月18日（金）、産業・経済関係分野、観光関係分野などの団体が参加し、「ジュニア・サミット桑名市民会議」が設立され、おもてなし部会、交流部会、発信部会、運営部会、危機管理部会、協賛部会、支援部会の計7部会を設置し、受入れ準備を行った。

【活動内容の概要】

ジュニア・サミット開催期間中、安全対策活動の一環として、桑名医師会や桑名消防本部と連携し、救急・医療体制を整えるとともに、桑名地域生活安全協会や長島地区防犯ボランティアなどで結成した「ジュニア・サミット防犯パトロール隊」による桑名市長島町地内のパトロールを実施した。

また、4月23日（土）の夜、なばなの里において、ジュニア・サミット参加者を歓迎する桑名市独自の交流事業「KUWANA NIGHT」を実施した。

さらに、開催期間中、県民会議と共催で宿泊施設内に設置したサポートデスクにて、桑名の千羽鶴を体験する「折り鶴ブース」や書道を体験する「書道ブース」を設けるとともに、参加者にプレゼントした伊勢形紙を使用した浴衣の着方をレクチャーする「浴衣講座」を開催し、参加者に桑名や日本の伝統文化を体感してもらう機会を提供した。

このほか、桑名市では、開催前、開催中の期間を通し、ジュニア・サミット桑名市民会議主催の開催100日前、50日前、30日前イベントや桑名エキシビションのほか、市内の企業や団体、自治会など様々な団体が主催したジュニア・サミット関連イベントが開催され、計48件、約8,400名の市民等が参加した。

〔ジュニア・サミットの写真：※は2016年ジュニア・サミット in 三重事務局提供〕

2 多様な主体における国際理解・国際交流事業

伊勢志摩サミット開催を契機に、参加国について学ぶ機会を設け、県民の皆さんのサミット開催に向けた機運やおもてなしの心を醸成するとともに、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深めること、特に、次世代を担う子ども達にとって国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることを目的に、以下の事業を実施した。

(1) 国際理解・国際交流プログラムの開発及び実施

【平成27年度】

幼稚園・保育所、学校、市町、企業、団体等、多様な主体が行う授業や講座等に、サミット参加国出身の在住外国人や留学生などのサミット参加国に詳しい方々を講師として派遣し、参加国について、楽しみながら学べる18のプログラムを準備した。平成27年11月30日（月）から平成28年3月14日（月）までの期間で全91回実施し、約3,030人が参加した。

(開発したプログラム)

プログラム			
主に園児対象	参加国の遊びを楽しもう	主に中学生対象	参加国の料理を作ってみよう
	参加国の音楽を楽しもう		参加国の生活を知ろう
	参加国の言葉でお話してみよう		参加国について調べたことを講師に発表してみよう
主に小学校低学年対象	参加国の言葉でお話してみよう	主に高校生対象	参加国の生活を知ろう
	参加国の生活についてのクイズに挑戦		参加国の大学への留学方法、大学生活を知ろう
	参加国の音楽を楽しもう		参加国について調べたことを講師に発表してみよう
主に小学校高学年対象	参加国の料理を作ってみよう	主に一般県民対象	親子で参加国の遊びを体験してみよう
	参加国を世界地図で探そう		参加国の家庭料理を作ってみよう
	参加国のスポーツを体験してみよう		参加国の音楽を楽しもう

(実施回数)

	実施地域					回数計
	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	
幼稚園・保育所	12	5	1	7	0	25
小学校	15	10	3	5	1	34
中学校	4	1	0	5	0	10
高等学校	2	0	1	4	0	7
特別支援学校	3	1	0	1	0	5
一般	4	0	3	3	0	10
計	40	17	8	25	1	91

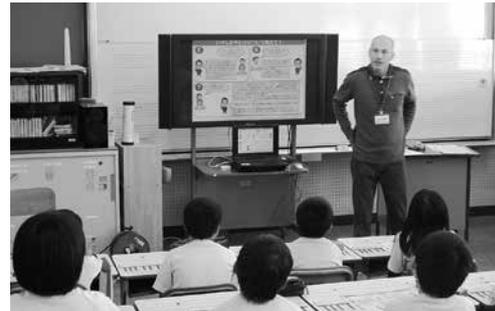
※申込は196回分あった。

(実施状況)

実施日	実施主体	対象国	参加者	実施日	実施主体	対象国	参加者
H27.11.30	三重県立鳥羽高等学校	イタリア	3年生10名	H28.1.13	鈴鹿市立一ノ宮幼稚園	アメリカ	5歳児16名
H27.12.4	津市立養正小学校	ドイツ	5～6年生80名	H28.1.14	大台町立宮川小学校	ドイツ	5年生14名
H27.12.7	志摩市立大王幼稚園	ドイツ	4歳児31名	H28.1.17	志摩国際交流協会	アメリカ	一般県民約40名
H27.12.7	志摩市立大王幼稚園	ドイツ	5歳児29名	H28.1.18	いなべ市立中里小学校	アメリカ	1～2年生9名
H27.12.8	大台町立三瀬谷小学校	ドイツ	3年生20名	H28.1.19	桑名市立大和小学校	アメリカ	4年生17名
H27.12.8	大台町立三瀬谷小学校	ドイツ	3年生20名	H28.1.21	志摩市立下之郷保育所	ドイツ	5歳児28名
H27.12.8	三重県立盲学校	アメリカ	小学部1～2年生10名	H28.1.24	子どもアイデア楽工	アメリカ	小学校高学年約10名
H27.12.9	伊勢市立神社幼稚園	アメリカ	4～5歳児15名	H28.1.24	子どもアイデア楽工	アメリカ	小学校低学年約10名
H27.12.9	伊賀総合ケアセンターシルバーケア豊壽園	アメリカ	施設利用者20名	H28.1.25	しまの杜保育園	ドイツ	5歳児22名
H27.12.10	三重県立くわな特別支援学校	アメリカ	小学部4～6年生20名	H28.1.25	子育てセンターわくわくの森	ドイツ	親子約30名
H27.12.10	三重県立くわな特別支援学校	アメリカ	小学部1～3年生15名	H28.1.26	尾鷲市立宮之上小学校	イタリア	1～2年生41名
H27.12.11	高花平保育園	アメリカ	4～5歳児35名	H28.1.28	三重県立度会特別支援学校	ドイツ	高等部18名・中学部11名・小学部6名
H27.12.12	伊勢学園高等学校	アメリカ	3年生41名				
H27.12.12	伊勢学園高等学校	アメリカ	3年生40名	H28.1.28	津市立一志西小学校	カナダ	5年生30名
H27.12.14	玉城町立外城田保育所	フランス	5歳児48名	H28.1.28	津市立一志西小学校	カナダ	5年生30名
H27.12.14	玉城町立外城田保育所	フランス	4歳児33名	H28.2.1	南伊勢町立南島西小学校	ドイツ	5年生13名
H27.12.14	桑名市立多度青葉小学校	アメリカ	2年生17名・3年生18名	H28.2.1	三重県立四日市農芸高等学校	イタリア	2年生20名
H27.12.14	暁幼稚園	アメリカ	5歳児65名	H28.2.2	伊勢市立港中学校	アメリカ	2年生56名
H27.12.14	マリア・モンテッソーリ幼稚園	イタリア	3～6歳児80名	H28.2.2	伊勢市立港中学校	アメリカ	2年生56名
H27.12.14	三重県立くわな特別支援学校	イタリア	中学部1～3年生20名	H28.2.3	津田学園中学校	イタリア	1年生29名
H27.12.15	亀山市立亀山東小学校	ドイツ	6年生37名	H28.2.4	志摩市立磯部小学校	ドイツ	1年生41名
H27.12.15	亀山市立亀山東小学校	ドイツ	6年生38名	H28.2.4	三重県立桑名西高等学校	イタリア	2年生40名
H27.12.15	津市立新町小学校	カナダ	1年生86名	H28.2.5	三重県立宇治山田商業高等学校	イタリア	1年生40名
H27.12.16	名張市立桔梗が丘東小学校	フランス	6年生25名	H28.2.5	名張市立梅が丘小学校	カナダ	5～6年生11名
H27.12.16	名張市立桔梗が丘東小学校	フランス	3年生32名	H28.2.9	四日市市立楠中学校	イタリア	1年生42名
H27.12.17	鈴鹿市立神戸小学校	アメリカ	6年生31名	H28.2.9	四日市市立楠中学校	イタリア	1年生42名
H27.12.17	鈴鹿市立神戸小学校	アメリカ	6年生31名	H28.2.9	四日市市立楠中学校	イタリア	1年生42名
H27.12.17	鈴鹿市立神戸小学校	アメリカ	6年生31名	H28.2.9	名張市立薦原保育所	カナダ	1～5歳児36名
H27.12.17	鈴鹿市立神戸小学校	アメリカ	6年生31名	H28.2.10	くわな幼稚園	アメリカ	5歳児100名
H27.12.17	安永保育園	アメリカ	5歳児27名	H28.2.15	ファボール鳩(とき)	イタリア	施設利用者10名
H27.12.17	志摩市立鶴方小学校	イギリス	1年生28名	H28.2.18	鈴鹿市箕田公民館	ドイツ	一般県民12名
H27.12.17	志摩市立鶴方小学校	イギリス	1年生26名	H28.2.18	津市立安濃小学校	アメリカ	5年生30名
H27.12.17	志摩市立鶴方小学校	イギリス	1年生27名	H28.2.22	津市立桃園幼稚園	アメリカ	3～5歳児67名
H27.12.17	津市立神戸小学校	アメリカ	1年生30名	H28.2.22	いなべ市立阿下喜小学校	イタリア	3～6年生15名
H27.12.17	桑名市立山崎乳児保育所	アメリカ	5歳児25名	H28.2.26	伊賀市国際交流協会	フランス	一般県民20名
H27.12.18	伊勢市立城田中学校	イギリス	2年生52名	H28.3.1	津市立みさと幼稚園	アメリカ	5歳児21名
H27.12.18	三重県立名張桔梗丘高等学校	イタリア	2年生53名	H28.3.2	くわな幼稚園	アメリカ	4歳児107名
H27.12.21	津愛児園	イタリア	3～5歳児70名	H28.3.3	桑名市立大山田東小学校	カナダ	2年生60名
H27.12.22	四日市市立下野中央保育園	アメリカ	5歳児19名	H28.3.3	桑名市立大山田東小学校	カナダ	2年生60名
H27.12.23	水谷新聞店	アメリカ	親子10名	H28.3.3	桑名市立大山田東小学校	カナダ	2年生30名
H27.12.24	朝日学童保育所	アメリカ	1～5年生20人	H28.3.4	亀山愛児園	アメリカ	4～6歳児45名
H27.12.25	明和町立ささふえ保育所	ドイツ	5歳児29名	H28.3.5	伊勢市生活環境部市民交流課	アメリカ	一般県民30名
H27.12.25	あかつき保育園	イタリア	5～6歳児21名	H28.3.9	桑名ヒッポファミリークラブ	アメリカ	4～10歳児及び保護者12名
H28.1.6	Kids Duo津	ドイツ	3～6歳児15名	H28.3.14	松阪市立大江中学校	ドイツ	1～2年生16名
H28.1.6	Kids Duo津	ドイツ	6～10歳15名	H28.3.14	南伊勢町立南島中学校	イギリス	2年生37名
H28.1.10	ボーイスカウト桑名第三団ビーバー隊	アメリカ	親子約50名	H28.3.14	南伊勢町立南島中学校	アメリカ	1年生34名



プログラムのリーフレット（平成27年度）



大台町立三瀬谷小学校での様子

【平成28年度】

平成28年度については、27年度事業を踏襲しつつ、特に、次世代を担う子どもたちが国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることを目的とし、学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）を対象として、12のプログラムを準備し、平成28年6月6日（月）から平成28年10月11日（火）までの期間で全30回実施し、約900人が参加した。

（プログラム）

プログラム			
主に小学校 低学年対象	参加国の言葉でお話してみよう	主に中学生 対象	参加国の言葉でお話してみよう
	参加国の生活についてのクイズに挑戦		参加国の生活を知ろう
	参加国の音楽を楽しもう		参加国について調べたことを講師に発表してみよう
主に小学校 高学年対象	参加国の言葉でお話してみよう	主に高校生 対象	参加国の生活を知ろう
	参加国の生活についてのクイズに挑戦		参加国について講師に質問してみよう
	参加国を世界地図で探そう		参加国について調べたことを講師に発表してみよう

（実施回数）

	実施地域					回数計
	北勢	中南勢	伊賀	伊勢志摩	東紀州	
小学校	11	3	3	1	1	19
中学校	5	0	0	1	0	6
高等学校	0	1	0	0	0	1
特別支援学校	1	3	0	0	0	4
計	17	7	3	2	1	30

※申込は、56回分あった。

(実施状況)

実施日	実施主体	対象国	参加者	実施日	実施主体	対象国	参加者
H28.6.6	桑名市立多度青葉小学校	アメリカ	5年生18名	H28.6.27	四日市市立西朝明中学校	アメリカ	3年3組約31名
H28.6.8	鈴鹿市立明生小学校	イタリア	6年生47名	H28.6.27	四日市市立西朝明中学校	アメリカ	3年4組約31名
H28.6.9	伊賀市立依那古小学校	アメリカ	1・2年生35名	H28.6.28	三重県立稲葉特別支援学校	ドイツ	高等部3年生26名
H28.6.10	いなべ市立丹生川小学校	アメリカ	2年生17名	H28.6.30	四日市市立桜台小学校	イタリア	5年生24名
H28.6.10	いなべ市立丹生川小学校	アメリカ	1年生14名	H28.6.30	四日市市立桜台小学校	イタリア	5年生25名
H28.6.13	三重県立飯南高等学校	イタリア	2年生17名	H28.7.14	三重県立緑ヶ丘特別支援学校	ドイツ	中部部・高等部10名
H28.6.13	鈴鹿市立若松小学校	アメリカ	2年生60名	H28.9.9	松阪市立射和小学校	イギリス	6年生30名
H28.6.14	三重県立城山特別支援学校	イタリア	中学部1・3年生14名	H28.9.9	松阪市立射和小学校	イギリス	5年生31名
H28.6.16	皇學館中学校	アメリカ	3年生46名	H28.9.12	伊賀市立久米小学校	アメリカ	3年生33名
H28.6.22	松阪市立第二小学校	カナダ	5年生21名	H28.9.26	三重県立特別支援学校 北勢きらら学園	アメリカ	中部部1~3年生26名
H28.6.22	名張市立桔梗が丘南小学校	アメリカ	5年生39名	H28.9.28	鈴鹿市立旭が丘小学校	イタリア	5年生約66名①
H28.6.22	津田学園中学校	アメリカ	1年生27名	H28.9.28	鈴鹿市立旭が丘小学校	イタリア	5年生約33名②
H28.6.24	熊野市立五郷小学校	イタリア	1~6年生14名	H28.9.28	鈴鹿市立旭が丘小学校	イタリア	5年生約33名③
H28.6.27	四日市市立西朝明中学校	アメリカ	3年1組約31名	H28.9.28	鈴鹿市立旭が丘小学校	イタリア	5年生約33名④
H28.6.27	四日市市立西朝明中学校	アメリカ	3年2組約31名	H28.10.11	玉城町立田丸小学校	フランス	5年生41名



プログラムのリーフレット（平成28年度）



県立飯南高等学校でのプログラムの様子

(2) 参加国紹介等パネルの作成・展示

サミット及びサミット参加国紹介、過去に開催されたサミットの年表、過去に日本で開催されたサミット当時の世相を紹介するパネルを作成し、平成27年9月5日（土）の第1回伊勢志摩サミットフォーラム以降、三重テラスや「2016年ジュニア・サミットin三重」の主会場である桑名市内などにおける各イベント等で展示した。



イオンモールでの展示



展示パネル例

(3) 国際理解・国際交流に資するイベントや講演会

平成27年11月14日（土）、15日（日）、紀北町で開催された「第10回子育て応援！わくわくフェスタ」にブースを出展した。子どもや子育て世代を対象として、サミット参加国を含む海外に関心を持っていただくため、サミット及びサミット参加国紹介パネルの展示や、国旗を使った折り紙やパズルを楽しんでいただいた。また、伊勢志摩サミットに関心を持っていただくため、多くの来場者の参加を得て、伊勢志摩サミット開催までのカウントダウンボードを手づくりで作成した。完成したカウントダウンボードは、伊勢志摩サミット開催まで道の駅「紀伊長島マンボウ」に掲示し、機運醸成の一助とした。



ブース



作成したカウントダウンボード

平成28年1月19日（火）、津市との共催事業として、津市立南が丘中学校で在名古屋米国領事館首席領事を講師として招き、「伊勢志摩サミット国際理解講演会」を開催した。首席領事スティーブン・G・コバチーチ氏から「アメリカ人の目から見た日本」と題した講演をいただき、その後前葉津市長を交え、生徒たちと対話を行った。1～2年生の生徒約240名、教職員約20名が聴講した。



津市立南が丘中学校での講演会

(4) 外務省事業「イチからわかる！サミット塾」の支援

当事業は、外務省が、次世代を担う子ども達に外交についての関心を高めていただくとともに、伊勢志摩サミットを世代を超えて盛り上げるため、三重県内の小・中・高等学校に職員を派遣するものであり、伊勢志摩サミット三重県民会議では、募集や申込受付等について支援を行った。

平成27年12月7日（月）から平成28年3月15日（火）までの期間で、小学校15校、中学校5校、高等学校9校で実施し、4,670人を超える児童・生徒が参加した。



県立上野高等学校での様子

3 大学生・留学生との交流事業

サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外大学生や留学生が三重に集い、県内高等教育機関の学生や留学生と共に、サミットに関係するグローバルなテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催した。

(1) 概要

- ①名称 「2016大学生国際会議in三重」(略称：UNICOM/ユニコム)
英語名：University Students' International Conference in Mie
- ②主催 伊勢志摩サミット三重県民会議
一般社団法人KIP知日派国際人育成プログラム
- ③後援 外務省
- ④期間 平成28年8月31日(水)から9月3日(土)まで3泊4日
- ⑤場所
 - 伊勢市：神宮会館 他伊勢市内各所(8月31日・9月1日・3日)
 - 南伊勢町：海ぼうず 他南伊勢町内各所(9月1日・2日)
- ⑥参加者
 - 県外大学生、留学生 53人(うち留学生15人)
 - 県内高等教育機関の学生、留学生 23人(うち留学生4人)
 - 計 76人(うち留学生19人)

⑦主な内容

- 知事講話
テーマ「未来を担う若者へ」
- 討議に資する視察等
 - 伊勢市内視察
 - ・伊勢神宮(外宮)、せんぐう館、外宮参道(8月31日)
 - ・伊勢神宮(内宮)(9月1日)
 - ・分散型(9月1日)
 - Aコース：神宮神田、御塩浜、岩戸の塩工房など
 - Bコース：神宮徴古館、おはらい町・おかげ横丁など
 - Cコース：伊勢河崎商人館、伊勢古市参宮街道資料館、麻吉旅館など
 - 南伊勢町一次産業現場視察・体験(分散型)(9月2日)
 - Aコース：みかん(①ないぜしぜん村、②農事組合法人土実樹)
 - Bコース：干物(有限会社山藤)
 - Cコース：スナップエンドウ(伊勢農協南勢・南島育苗センター)
 - Dコース：アサリ養殖(五ヶ所前浜)
 - Eコース：小麦栽培・獣害対策(河内地区)
 - 志摩市視察(9月3日)

横山展望台

○討議

討議Ⅰ

「～地域資源を活用した地方創生～『ふるさと納税は地域活性化や地域のためになるのか』」

討議Ⅱ

「～地場産業とグローバル社会～『貿易の自由化は促進されるべきか』」

○総括討議

「三重県における地域活性化の方法について」

(2) 取組内容**① 1日目(8月31日(水))****【開会式】**

主催者あいさつでは、鈴木知事から「多様な価値観を共有し、新しいイノベーションを生む4日間となることを期待する」と話があった。

参加者代表あいさつでは、「日本中の学生や留学生とともに内なる国際化を図れることを楽しみにしている。イノベーションに満ちた4日間としたい」と決意が述べられた。

【知事講話】

開会式後、知事から「未来を担う若者へ」と題した講話があり、参加者は熱心に知事の話聴講した。

【伊勢市内視察】

伊勢神宮外宮へ移動し、班別に神宮司庁職員の案内による外宮訪問や学芸員の案内によるせんぐう館見学を行うとともに、県内学生ボランティアから外宮参道のまちづくりの取組の説明や案内を受けながら、外宮参道周辺を散策した。

【交流】

夜は宿泊先である神宮会館において、参加者が企画した交流行事が行われ、クイズやゲームなどで参加者同士の親睦を深めた。



UNICOM参加者記念撮影



伊勢神宮外宮訪問



せんぐう館の視察

②2日目（9月1日（木））

【伊勢市内視察】

古から伊勢に伝わる朔日詣の文化を体感するため、早朝から伊勢神宮内宮を訪問した。また、午後の討議Ⅰのテーマ「～地域資源を活用した地方創生～」に関連して、伊勢神宮や伊勢の文化に触れ、伊勢ならではの地域資源の保全や活用方法を学ぶため、3班に分かれて、神宮神田、御塩浜、岩戸の塩工房、神宮徴古館、おはらい町・おかげ横丁、伊勢河崎商人館、伊勢古市参宮街道資料館、麻吉旅館などを視察した。

【討議Ⅰ】

午後、11グループに分かれ、討議テーマⅠ「～地域資源を活用した地方創生～『ふるさと納税は地域活性化や地域のためになるのか』」について討議を行った。

参加者からは、「ふるさと納税は、日本には根付いていない『寄附』という文化への第一歩として捉えてはどうか」や「ふるさと納税を通じて、自分の町を真剣に考えるきっかけになり、希薄化している郷土への愛着を強めることにつながる」といった賛成の意見や、「生産者は、製品の良さを知ってもらいたいと思っているが、納税者は人気に左右されがちであり、本来生産者が伝えたいモノの価値が伝わらない」といった反対の意見が出るなど、学生ならではの自由な視点から、闊達な意見交換が行われた。

【交流】

夕方、南伊勢町に移動し、夜、小山南伊勢町長からの歓迎挨拶の後、相賀浦区の住民の皆さんとともに「大漁旗」を作り、交流を深めた。



伊勢神宮内宮訪問



伊勢神宮神田の視察



おはらい町の視察



伊勢河崎商人館の視察



討議Ⅰ



相賀浦区住民と大漁旗作成

③3日目（9月2日（金））

【南伊勢町現地視察・体験】

午後からの討議に生かすため、午前中5コース（6班）に分かれ、以下の施設を視察し、実際に作業体験を行った。

○Aコース：みかん（ないぜしぜん村、農事組合法人土実樹）

南伊勢町特産品のみかん生産、加工販売や商品の高付加価値化に向けた取組等を学ぶとともに、みかんの摘果作業やジュース加工等の体験を行った。

○Bコース：干物（有限会社山藤）

南伊勢町の基幹産業ともいえる漁業に関し、水産加工業の実情や商品の高付加価値化、差別化などの取組等を学ぶとともに、干物づくりの体験を行った。

○Cコース：スナップエンドウ（伊勢農協南勢・南島育苗センター）

南伊勢町の新たな振興作物として、生産に注力しようとする生産の現場から、その取組に係る背景や取組内容等を学ぶとともに、スナップエンドウの播種作業の体験を行った。

○Dコース：アサリ垂下養殖（五ヶ所前浜 アサリ養殖場）

漁獲量が減少しているアサリに関し、養殖技術の発展を踏まえ、漁場整備や資源管理など漁獲量の増加に向けた取組等を学ぶとともに、アサリの垂下試験栽培に関する作業の体験を行った。

○Eコース：小麦栽培・獣害対策（河内地区小麦栽培予定地）

一次産業を中心に、地域活性化に向けた新規就農の取組や、近年、一次産業に深刻な影響を及ぼしている獣害被害の実状と対策のための取組等を学ぶとともに、獣害対策用防護柵の張替作業等の体験を行った。

【討議II】

午後、11グループに分かれ、討議テーマII「～地場産業とグローバル社会～『貿易の自由化は促進されるべきか』」について討議を行った。参加者からは「海外から安い商品が大量に流入するという懸念があるが、高い品質とブランド化で防ぐ必要がある。また、自由化により海外市場が拡大するため、そういう意味でもブランド化を図る必要がある」「ブランド化を進めるには、情報発信が課題となる。地元の大学とのコラボレーションを進めてはどうか」といった賛成の意見や、「一次産業が衰退すると食料自給率の低下や日本固有の文化の衰退が起こる」といった反対の意見、「ブランド化が簡単にできるのか。ブランド化できる地場産業がない地域はどうしたらよいか」といった意見など、多角的な視点から幅広い意見が出され、深い議論が行われた。



みかん摘果作業の視察



みかん生産・加工販売等の視察



干物づくり体験



スナップエンドウ播種作業の視察



アサリ採苗設置作業の視察



獣害対策用防護柵の張替作業の視察



討議II



南伊勢町「たいみー」のおもてなし



交流行事を終えて記念撮影

④4日目（9月3日（土））

【志摩市視察】

南伊勢町から伊勢市への移動の途中、伊勢志摩サミットが開催された賢島を望める横山展望台を訪問した。

【総括討議】

神宮会館において、伊勢市、南伊勢町で行った視察及び討議を踏まえて、三重県における地域活性化の方法について討議し、知事に対し提案が行われた。

主な提案としては、三重のみかんを日本一にするブランディングについて、修学旅行でミカン農家の体験をしたり、みかんのキャラクターでアニメを作ることや、三重への若者観光客のリピーター増加について、農業体験、住みこみキャンプなど三重の特性を生かしたイベントの企画、SNSでの発信や、三重県でのビジネスフォーラムの開催など、若者の視点で具体策の提案が行われた。

【閉会式】

参加者代表から「都会でなく自然豊かな三重で、いろんな視点で議論できたことは勉強になった」「地元の方と交流でき、視野が広がって良かった。今後もこうしたイベントに参加したい」「一生自分の背中を押してくれる財産となった」など、日程を終えた感想等が述べられた。

【伊賀市視察】《オプション》

午後、希望者のみ伊賀の文化を体感するため、伊賀市の上野公園に移動し、伊賀流忍者博物館や伊賀上野城などを視察した。



横山展望台



総括討議



学生からの提案に対する知事コメント

4 サミット協力宿泊施設経営向上支援補助金

伊勢志摩サミット終了後の取組の一つとして、「サミット協力宿泊施設経営向上支援補助金」制度を創設し、平成28年7月1日から募集を開始した。

宿泊予約センターによるサミット関係者の宿泊の確保・調整業務に協力した宿泊施設（約300施設）のうち、「三重県版経営向上計画ステップ2または3」の認定を受けた中小企業・小規模企業を対象として、上限100万円（下限50万円；定額）を補助し、サミットを機に一層の経営向上を図り、サミット後の経営環境に即した集客力や生産性の向上、高付加価値化などに取り組むことを支援することとした。

5 伊勢志摩サミット開催記念・三重の魅力再発見キャンペーン

伊勢志摩サミット終了後の取組の一つとして、サミットやジュニア・サミットの開催を機に再発見された三重の魅力ある食、文化、産業、観光スポットなどの観光資源を広くPRするとともに、企画ツアー等を通じた具体的な集客により三重の魅力を体験・体感し、積極的に発信してくれるファンづくりに取り組むこととした。

6 伊勢志摩サミット記念館（仮称）の設置

伊勢志摩サミット開催を記念し、サミットの様子や使用された調度品・県産材等の紹介を行うこと等により、サミットの足跡を後世に伝えるものとして、近鉄賢島駅2階に伊勢志摩サミット記念館（仮称）を設置することとした。

第5章 三重の発信

1 ホームページ、SNSでの発信

伊勢志摩サミット三重県民会議の活動等をタイムリーに周知していくため、伊勢志摩サミット開催決定後、平成27年6月5日（金）にSNS（Facebook、Twitter）を、6月8日（月）にホームページをそれぞれ開設した。

（1）ホームページ

平成27年6月8日の開設以降、平成28年2月16日（火）まで、県民会議の職員が更新作業等を行い運用した。しかしながら、伊勢志摩サミット開催が近づき、発信すべき情報が日々増す中、職員のみではタイムリーな発信が困難となってきたことから、2月17日（水）のホームページリニューアル以降、運営を事業者への委託へ切り替えた。切り替えにあたっては、三重県の実施する企業の本社機能移転促進補助金事業適用の第1号である、株式会社FIXERにホームページの開発・構築を協賛いただき、以降の運営は同社と業務委託契約を締結し実施した。



リニューアル式

委託期間中は時期に合わせてホームページの構成を適宜変更し、その時々で必要な情報、提供すべき情報、例えば、開催数カ月前から警備・交通規制情報をトップページに常に表示したり、報道機関が集まり始めるサミット開催1週間前には、報道機関向け情報を表示したりすることで、アクセスしやすい運営を行った。

また、一部のコンテンツについては、多言語（日・英・仏・独・伊）に対応した。

開設からサミット最終日の平成28年5月27日（金）までの間に約98万件のページビューがあり、一日あたりの最多は5月25日（水）の約43,000件のページビューであった。

【掲載内容】

○三重県概要など

県民会議会長あいさつ、開催地（賢島）情報、三重県の基礎情報（人口、面積など）等

○サミット情報

県民会議の最新情報、サミット概要、警備・交通規制情報等

○伝統・文化

三重県の「伝統」と「革新」、自然、食等

○三重の産業

産業構造、ものづくり産業、農林水産業、インフラ等

○伊勢志摩サミット三重県民会議とは

県民会議概要、県民会議事業紹介、シンボルマーク紹介、サミット通信掲載等

○協賛、応援、寄附

協賛事例・応援事業事例の紹介、寄附の紹介等

○気候・アクセス

気候、アクセス、宿泊予約センター、プレス向けシャトルバス等



サミット終了後日本語版HP



サミット終了後英語版HP



(2) SNS

平成27年6月5日にFacebook及びTwitterを開設して以降、伊勢志摩サミット三重県民会議の取組や三重県の情報を発信した。開催直前は、三重県警察、愛知県警察、外務省のFacebook、Twitterに掲載されたサミット情報、警備・交通規制情報をシェア・リツイートするなどし、タイムリーな情報発信を行った。

【サミット終了時点での実績】

Facebook	投稿数：329件	通算「いいね」：6,121いいね
Twitter	投稿数：331件	フォロワー数：1,333フォロワー

また、サミット終了後も、「サミット裏話・こぼれ話」と題して、サミットに関する様々な情報を継続的に発信した。

2 ポスターによるPR

サミット開催への期待感と県民会議の基本方針である「おもてなし」「三重の発信」「明日へつなぐ」への県民の皆さんの機運醸成を図ることを目的に、伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスターを第1弾から第5弾まで制作し、県民会議会員や県内市町等に配布して掲出を依頼した。また応援事業として自社の店舗やイベントにおいてポスターを掲出する企業、団体もあった。なお、各弾のテーマは以下のとおりである。

※（ ）は印刷枚数

第1弾	サミット開催の告知	(35,700枚・英語版2,700枚含む)
第2弾	県民会議シンボルマークの決定	(12,000枚)
第3弾	サミット開催に向けてのおもてなしの心	(15,000枚)
第4弾	三重から世界へ(三重の魅力の発信)	(15,000枚)
第5弾	明日へつなぐ	(13,500枚)

第1弾【平成27年7月～】



第1弾【英語版】



第2弾【平成27年10月～】



第3弾【平成27年12月～】



第4弾【平成28年3月～】



第5弾【サミット終了後】



(1) デザインの公募

第3弾及び第4弾のポスターは公募とし、選考委員会による審査・決定を経て制作した。

①伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスター選考委員会

- 座長 水谷 孝次 氏 水谷事務所/MERRYPROJECT代表・アートディレクター
 委員 田端 英明 氏 公益社団法人三重県観光連盟専務理事（県民会議事業推進部会長）
 江崎 貴久 氏 海島遊民くらぶ代表
 三田 絢子 氏 有限会社伊勢福・広報担当
 森岡 佳菜 氏 三重大学大学院工学研究科建築学専攻



ポスター選考委員の皆さん

②第3弾ポスター選定の経過

応募資格：不問

応募期間：平成27年10月14日（水）から11月13日（金）まで

応募作品：22作品

最優秀賞：家田 幸奈さん（愛知県名古屋市）

（制作意図）

「お祝い事などの贈り物に使われる水引には贈る相手への想いがこめられ、日本ならではのおもてなしの心が宿っています。そこで、伊勢志摩を象徴する伊勢エビを各国をあらわす7本の紐で水引にしました。結び方は、匏結びという種類の結び方を参考にアレンジして制作いたしました。匏結びは、結び目が絡み合い、互いの輪が互いに結びあっていることからいつまでも良きお付き合いをとの願いが込められているそうです。伊勢志摩サミットをきっかけとして各国との絆が末永く結ばれればと思います。」

優秀賞：奥山 知香さん（度会郡玉城町）

有村 綾さん（兵庫県神戸市）

丹羽 和乃さん（岐阜県海津市）

③第4弾ポスター選定の経過

応募資格：不問

応募期間：平成27年12月21日（月）から平成28年2月5日（金）まで

応募作品：31作品

最優秀賞：積木 孝典さん（津市）

（制作意図）

「海から昇る日の出と水面のゆらぎをモチーフに、三重の魅力の根源でもある『自然の恵み、祈り、感謝』を表現しました。ゆらぎをイメージしたイラストは、海山の幸、祈りや感謝から生まれた文化・伝統、四季のうつろいや自然との営み等の三重の多彩な魅力を表し、美しく華やかな色調となるように心がけて、制作しました。また、太陽と重なる7つの水しぶきは、サミット参加国を表し、この地から明るい未来と平和の波を三重の魅力と共に、世界に広げてほしいという願いが込められています。」

優秀賞：坂倉 亮子さん（津市）

安藤 真理さん（愛知県名古屋市）

秀島 康修さん（愛知県名古屋市）

④ポスター表彰式

第3弾ポスターについては平成27年12月18日（金）、第4弾ポスターについては平成28年3月16日（水）に、それぞれ県庁において表彰式を行った。表彰式では、鈴木知事から賞状が手渡された。



各表彰式の記念撮影

(2) 広告の募集

サミット開催に伴う各事業へより多くの方々に参加していただく機会づくりのひとつとして、社名広告を前提としたポスターの印刷・発送費用を負担する協賛事業者を募集した。

【応募事業者（五十音順）】

（第3弾）6社

イオングループ、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社第三銀行、株式会社トーエネック、株式会社ナミカワ、株式会社百五銀行

（第4弾）11社

イオングループ、J Aグループ三重、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社第三銀行、東京海上日動火災保険株式会社、日本通運株式会社三重支店、株式会社百五銀行、株式会社三重銀行、三重交通グループホールディングス株式会社、株式会社三菱東京U F J銀行、明治安田生命保険相互会社

(3) 県民会議公式ポスター公募原画展の開催

応募者の皆さんの力作を多くの方々にご覧いただくため、応募作品の原画展をイオングループの協賛により下記のとおり開催した。

①展示したポスター及び内容

(第3弾) 応募数：22作品 (うち展示に対し応募者から了承を得られた15作品)

(第4弾) 応募数：31作品 (うち展示に対し応募者から了承を得られた30作品)

応募作品と併せて、制作にあたっての本人のコメントを展示した。

②日程

- ・ 3月24日(木)～3月27日(日) イオン津ショッピングセンター
- ・ 4月1日(金)～4月3日(日) イオンモール鈴鹿
- ・ 4月8日(金)～4月10日(日) イオン名張店
- ・ 4月15日(金)～4月17日(日) イオンモール東員
- ・ 4月22日(金)～4月24日(日) イオンモール桑名
- ・ 4月29日(金)～5月1日(日) イオンモール四日市北
- ・ 5月6日(金)～5月8日(日) イオンモール明和
- ・ 5月13日(金)～5月15日(日) イオン伊勢店
- ・ 5月20日(金)～5月22日(日) イオン鳥羽店
- ・ 5月27日(金)～5月29日(日) イオン阿児店

③協賛内容

展示スペース及び展示備品の無償貸与

④主催・協力

主催：伊勢志摩サミット三重県民会議

協力：イオングループ



原画展（イオンモール鈴鹿）



原画展（イオンモール明和）

（4）スマートフォンの壁紙利用によるPR

県民の皆さんにスマートフォンの壁紙としてポスターの画像を利用させていただくことで、通常のポスター掲出と併せて一層のPRにつなげた。自身のスマートフォンから県民会議ホームページ及びFacebookにてポスターデータをダウンロードし、壁紙として設定する方法を採った。

3 シンボルマーク

三重県全体が一体となり、サミット開催に向けた活動を盛り上げていくために、伊勢志摩サミット三重県民会議の活動を象徴するマークとして、シンボルマークを制作した。制作にあたっては、デザイナーの近藤敦也氏に候補案を制作いただき、県民投票及び県民会議会長、副会長、理事の投票を経て決定した。

平成27年10月13日（火）の決定からサミット終了まで、企業・団体・個人の皆さんにシンボルマークを様々な形で活用いただき、県民会議としても公式ポスター、懸垂幕・横断幕、ノベルティ等で活用した。



伊勢志摩サミット
三重県民会議

（1）制作経緯

①制作者への依頼

平成27年8月21日（金）、鈴木知事より、四日市市在住のデザイナー近藤敦也氏に候補案制作を依頼した。

近藤氏は、県立特別支援学校北勢きらら学園在校時の作品が平成20年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用された後、夢であったグラフィックデザインの仕事に従事し、継続的にデザインに関わってこられた。

このような背景から、今回のシンボルマーク制作にあたり、北海道



シンボルマーク制作依頼

洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいくこと、また多様な主体に参画いただくことを県民会議からの強いメッセージとして県内外に伝えていくため、近藤氏が制作者に最もふさわしいと考え依頼した。

②候補案に対する県民投票、県民会議会長、副会長、理事による投票

「オール三重」で一丸となってサミットの成功に向けて取り組む県民会議のシンボルマークを決定するため、近藤氏に制作いただいたシンボルマーク候補案3件に対し、「オール三重」すなわち全県民対象の県民投票を実施した。

当該投票で候補案を上位2件へ絞った後、県民会議会長、副会長、理事による投票を経て、シンボルマークを決定した。

【県民投票概要】

○候補案

A 案	B 案	C 案
		
三重県から世界にメッセージを発信していくことを表現しています。サミットを機に、人々のつながりが三重県を飛び出して、国際的により発展してほしいという願いを込めています。	手を繋ぐ2人で、次世代へのつながりを表現しています。波線(なみせん)は、世界の人々と三重県の人々のつながりのタスキを表現しています。サミットで培われたあたたかなつながりを次世代へ受け継いでいこうという決意を込めています。	赤色の円と包む葉で、おもてなしの心を表現しています。3本の波線で、三重の三、そして、自然・文化・世界の人々と三重県民のつながりを表現しています。サミットで培われたおもてなしの心が未来へつながって、笑顔溢れる世界にしていこうという決意を込めています。

○投票条件 三重県に在住または通勤、通学している方

○投票期間 平成27年9月25日(金)正午から10月1日(木)24時まで

○投票方法 (ア)インターネットによる投票 (イ)郵送・FAXによる投票
以上2通りの方法により実施。

○投票結果 候補案をA案とB案に絞った。

総投票数：3,577票	(内訳)	得票数	得票率
	A案	1,109票	約31.0%
	B案	1,594票	約44.6%
	C案	874票	約24.4%

【県民会議会長、副会長、理事による投票概要】

○投票者 県民会議の会長、副会長、理事 計21名

○投票期間 平成27年10月2日(金)から10月5日(月)まで

○投票結果 B案に決定

(計算方法)

【会長等による投票結果】×【県民投票におけるそれぞれの候補案の得票率】

A案： 100点 × 31.0% = 31点

B案： 110点 × 44.6% = 49点

※会長、副会長、理事による1票をそれぞれ10点とし、集計した。

※県民会議の会長、副会長、理事の投票に、県民投票におけるそれぞれの候補案の得票の割合を乗じることで、県民投票の結果を反映させた。

③シンボルマーク発表

平成27年10月13日(火)に開催した伊勢志摩サミット三重県民会議第2回総会において、決定したシンボルマークを発表した。

制作者である近藤敦也氏も登壇し、「シンボルマークのように、人々のつながりを世界に広げ、三重県がグローバルな地域として発展してほしい」とコメントされた。



シンボルマーク発表

(2) シンボルマークの活用結果

①協賛、応援事業としての活用

シンボルマークの発表以降、企業・団体・個人の皆さんから使用申請を受け付け、各種商品や広報媒体に活用いただいた。

申請件数：402件

(シンボルマークの使用に関する取扱いはP 262、活用事例はP 280参照)

②県民会議としての活用

公式ポスター、カウントダウンボードやノベルティ等で活用したほか、サミット開催150日前の節目日に、県内29市町、県関係10庁舎へ懸垂幕・横断幕を掲出した。



横断幕デザイン(上) 懸垂幕デザイン(右)



4 伊勢志摩サミット・ロゴマーク

国（内閣官房内閣広報室）は、日本の伝統や文化、美しい自然、ふるさとなど、日本の素晴らしさをイメージしたロゴマークを、全国の小学校、中学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒を対象とした公募により制作した。

平成27年7月8日（水）から9月25日（金）の募集期間で、7,084作品の応募があった。これは、過去の北海道、沖縄と比較し、最多の応募数であった。三重県内では、県及び各市町がロゴマーク応募の広報活動に協力したこともあり、三重県からの応募が都道府県別で最多となった。

鈴木知事、県民会議シンボルマークの制作者である近藤敦也氏も委員を務めた、有識者等からなる「伊勢志摩サミット・ロゴマーク選考会」での3度にわたる審査を経て、総理に推薦する6作品を選定し、総理が採用作品を決定した。三重県からは2名の作品が優秀作品として選出され、平成27年12月28日（月）に表彰式が開催された。



【制作者】

大分県立鶴崎工業高等学校3年 宇津宮 志歩さん

【制作者による作品の説明】

「中央の赤い丸は日の丸を表しています。周囲には日本の象徴である桜の花びらを散りばめ、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの7カ国の参加国を表しています。

背景は伊勢志摩の美しい海を表現しました。この美しい海は世界につながっています。これからも世界が平和でありますよう祈っています。」

5 海外プレスツアー等の実施による情報発信

(1) 県民会議主催プレスツアー

世界に向けて三重県全体の情報発信を行うため、公益財団法人フォーリンプレスセンターと連携した海外プレスツアーを3回実施し、環境、農業、漁業、林業、後継者、女性の活躍等のテーマで幅広く取材してい

ただいた。3回のプレスツアーには海外メディア22社が参加し、世界各地で少なくとも24回報道された。

プレスツアーの実施にあたっては、世界が抱える共通課題など記者が関心を持つテーマを選定し、県内で特筆すべき取組をピックアップして行程に組み込んだ。また、事前に取材先と説明手法等について十分な打ち合わせを行うとともに、当日の記者の反応や理解に応じた説明を行った。

	実施日	取材場所
第1回	平成27年12月7日(月)、8日(火)	伊賀の里モクモク手づくりファーム(伊賀市)、伊賀流忍者博物館(伊賀市)、アグリー農園(名張市)、木の子の里(名張市)、うれし野アグリ(株)(松阪市)、知事インタビュー
第2回	平成28年2月17日(水)、18日(木)	速水林業(紀北町)、三重県立熊野古道センター(尾鷲市)、松本峠(熊野市)、花の窟神社(熊野市)、ビジョン早田実行委員会(尾鷲市)、尾鷲物産(株)(尾鷲市)、(株)ディーグリーン(紀北町)、知事インタビュー
第3回	平成28年5月11日(水)、12日(木)	伊勢神宮(伊勢市)、志摩観光ホテル(志摩市)、答志島(寝屋子制度、鳥羽磯部漁業協同組合)(鳥羽市)、(有)進誠堂(鈴鹿墨)(鈴鹿市)、(株)光機械製作所(津市)



農福連携の取組(名張市)



鈴鹿墨(鈴鹿市)

(2) 外務省主催プレスツアー

外務省が海外からメディアを日本に招へいして行ったプレスツアーにおいては、その滞在日程中、サミット開催地選ばれた三重県への訪問が多く盛り込まれた。

同プレスツアーは9回実施され、計37社が参加し、世界各地で少なくとも22回報道された。

県民会議としては、外務省との協力関係のなかで、メディアの関心の高いテーマを中心に取材先候補の提案を行った。その結果、サミット会場や伊勢神宮だけでなく、持続可能な農業・漁業、環境保護、女性の活躍、先端技術等多岐にわたる対象を取材していただくことができた。

対象国	日程	取材場所
第1回 (ASEAN10ヶ国)	平成27年8月27日(木)、28日(金)	四日市公害と環境未来館(四日市市)、日本アルシー(株)(菟野町)、四日市コンビナート夜景クルーズ(四日市市)
第2回 (中東5ヶ国)	平成27年8月30日(日)、31日(月)	せんぐう館(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、横山展望台(志摩市)、海の博物館(鳥羽市)、はちまんかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)
第3回 (ベルギー)	平成27年10月30日(金)、31日(土)	伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、はちまんかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)
第4回 (イスラエル)	平成27年11月14日(土)、15日(日)	米由商店(鳥羽市)、河武醸造(株)(多気町)、頭之宮四方神社(大紀町)

対象国	日程	取材場所
第5回 (クウェート)	平成28年1月30日(土)、31日(日)	(有)佐藤養殖場(志摩市)、はちまなかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、(有)オズ(鳥羽市)
第6回 (G7の5ヶ国)	平成28年5月11日(水)～13日(金)	伊勢神宮(伊勢市)、志摩観光ホテル(志摩市)、答志島〔寝屋子制度、鳥羽磯部漁業協同組合〕(鳥羽市)、(有)進誠堂〔鈴鹿墨〕(鈴鹿市)、(株)光機械製作所(津市)、航空宇宙産業振興・みえライフイノベーション総合特区(※県庁で説明)、鈴鹿ロボケアセンター(鈴鹿市)、伊勢根付彫刻館〔伊勢根付〕(伊勢市)
第7回 (11ヶ国)	平成28年5月25日(水)、28日(土)	(株)光機械製作所(津市)、伊勢市立五十鈴中学校(伊勢市)、海女漁(鳥羽市)、はちまなかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)
第8回 (ケニア)	平成28年5月26日(木)、28日(土)	県立津高等学校(津市)、海女漁(鳥羽市)、相差かまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)
第9回 (ベトナム)	平成28年5月28日(土)	伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、海女漁(鳥羽市)、はちまなかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)



伊勢神宮の記念植樹場所



海女漁(鳥羽市)

(3) 海外の富裕層への戦略プロモーション事業(県民会議主催)

三重の食や文化を海外、特に欧米の富裕層に広く知っていただくためには、対象とする層に発信力のある著名人に自らの言葉で三重の魅力を語っていただくことが効果的である。そこで、著名シェフ2名とシェフに同行するメディアを招へいし、シェフが自ら味わい、感じていただいたことを、メディアを通じて映像や記事として世界に発信した。

また、欧米の富裕層に対して発信力のあるメディアを招へいし、三重県が世界に発信したい食や文化のスポットを取材いただき、メディアを通じて三重の魅力を世界へ発信した。

本事業は計3回実施し、10社のメディアが参加し、世界各地で少なくとも18回報道された。

招へいした著名シェフ	日程	取材場所
シリル・リニャック氏	平成28年2月15日(月)～19日(金)	養肝漬宮崎屋(株)(伊賀市)、せんぐう館(伊勢市)、(有)佐藤養殖場(志摩市)、海の博物館(鳥羽市)、答志島(鳥羽市)、まるてん(有)(志摩市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、県立相可高等学校(多気町)、(株)三重エスカルゴ開発研究所(松阪市)、(株)桔梗屋織居(伊賀市)、(有)精肉のオクダ(名張市)、瀧白慢酒造(株)(名張市)
NOBU氏	平成28年3月28日(月)～30日(水)	せんぐう館(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、相差海女文化資料館(鳥羽市)、相差かまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、(有)友栄水産〔伊勢まだい〕(南伊勢町)、畦地水産〔渡利かき〕(紀北町)、尾鷲物産(株)(尾鷲市)、鬼ヶ城センター〔熊野地鶏、新姫〕(熊野市)、(有)深緑茶房(松阪市)

※シリル・リニャック氏

16歳から料理を学び、パリの有名レストランのシェフであるアラン・パッサール、プルセル兄弟に師

事した実力を持ち、現在はパリの一つ星レストラン「ル・キャンジエム」のオーナーシェフ。

※NOBU氏

寿司職人として東京・新宿「松栄鮨」で修業した後、ペルー、アルゼンチン、アラスカでのレストランの経験を経て、1987年にビバリーヒルズに「Matsuhisa」を開店。ハリウッドの著名人たちを魅了する人気店となっている。

日程	取材場所
平成28年3月3日(木)～6日(日)	鳥羽ビューホテル花真珠(鳥羽市)、横山展望台(志摩市)、志摩観光ホテル(志摩市)、まるてん(有) (志摩市)、相差かまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、和田金(松阪市)、せんぐう館(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、赤福〔五十鈴茶屋〕(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、夫婦岩(伊勢市)、賓日館(伊勢市)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、関宿(亀山市)、長谷製陶(株)(伊賀市)、伊賀流忍者博物館(伊賀市)



県立相可高等学校を訪問(多気町)



松阪牛のPR(松阪市)

(4) その他団体主催プレスツアー

各種団体が実施する海外メディア向けプレスツアーにおいても、三重の多様な魅力が発信されることを目指し、様々な形で連携を行った。

主催	日程	取材場所
—	平成27年9月5日(土)	伊勢神宮(伊勢市)、横山展望台(志摩市)
—	平成28年1月15日(金)、16日(土)	志摩観光ホテル(志摩市)、伊勢神宮(伊勢市)
関西地域振興財団	平成28年1月23日(土)、24日(日)	志摩観光ホテル(志摩市)、横山展望台(志摩市)、はちまんかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、夫婦岩(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、伊賀上野城(伊賀市)、伊賀流忍者博物館(伊賀市)
日本貿易振興機構(JETRO)	平成28年2月15日(月)～18日(木)	長谷製陶(株)(伊賀市)、伊賀流忍者博物館(伊賀市)、伊賀越(株)(伊賀市)、(株)大田酒造(伊賀市)、せんぐう館(伊勢市)、伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、(有)丸善水産(鳥羽市)、はちまんかまど〔海女小屋〕(鳥羽市)、川口農園(志摩市)、(有)山藤(南伊勢町)、(株)川原製茶(多気町)、(有)すぎもと農園(御浜町)、尾鷲物産(株)(尾鷲市)、(株)ディーグリーン(紀北町)、和田金(松阪市)、(有)丸中本店(松阪市)、知事インタビュー
日韓文化交流基金	平成28年2月23日(火)	扇芳閣(鳥羽市)、(特非)伊勢志摩バリアフリーツアーセンター(鳥羽市)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、海の博物館(鳥羽市)、万協フィギュア博物館(多気町)
環境省	平成28年3月8日(火)～10日(木)	伊勢神宮(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、海の博物館(鳥羽市)、まるてん(有)(志摩市)、志摩自然学校(志摩市)、(有)友栄水産(南伊勢町)、ミキモト真珠島(鳥羽市)、海女文化資料館(鳥羽市)
関西地域振興財団	平成28年4月4日(月)、5日(火)	覚田真珠(株)(伊勢市)、横山展望台(志摩市)、志摩自然学校(志摩市)、三重県水産研究所(志摩市)、志摩観光ホテル(志摩市)、夫婦岩(伊勢市)

(5) 報道関係者を対象とした知事会見等の開催

伊勢志摩サミットに向けた三重県の取組状況を説明するとともに、サミット開催地に選ばれた三重の魅力を紹介し、国内外の報道関係者等に広く発信するため、鈴木知事が説明を行った。

①日本記者クラブにおける知事会見

日 時：平成27年11月11日（水） 15時30分から16時50分まで

場 所：（社）日本記者クラブ

参加者：約50名（在京の報道関係者、企業・団体関係者等）

冒頭、鈴木知事が、伊勢志摩サミットの概要や開催県としての取組状況の説明のほか、伊勢神宮や海女など三重の魅力についてPRを行った。説明の最後に知事から「今回のサミットは三重県にとって千載一遇のチャンスである。その一方、式年遷宮の経験を経て、今後は地域の総合力を上げていく必要があり、サミットをそういう契機にしたい。政府とも連携して安全に開催し、三重県でやってよかったと言われるよう全力で取り組みたい」との発言があった。

参加者からは、警備面での課題、観光への影響、財政負担への対応などについて質疑があった。



日本記者クラブでの会見



日本外国特派員協会での会見

②日本外国特派員協会における知事ブリーフィング

日 時：平成27年11月18日（水） 12時から14時まで

場 所：（社）日本外国特派員協会

参加者：約40名（在京の外国報道関係者等）

会見に先立ち、参加者には、三重県産の食材を中心とした昼食が準備され、メイン料理の「松阪牛のローストビーフ」のほか、キャンディトマトやハナビラタケなどの県産野菜が提供され、三重県の豊かな食の魅力を実際に目と舌で感じていただいた。

知事は冒頭、日本時間11月14日に発生した、パリ同時多発テロ事件に関して「犠牲になられた皆様に哀悼の意を表するとともに、フランス国民や政府関係者等の方々にお見舞いを申し上げる」と述べた。その後、伊勢志摩サミットの概要説明や開催地三重県の紹介などを行った。特に、「サミットを安全に開催することが三重県にとって最も重要な課題だ」とし、「国を含んだ官民一体のテロ対策を推進する」と述べた。そのほか、サミットを通じて三重県が発信したいメッセージは「伝統と革新の共栄する姿」だとし、伊勢神宮の精神性や県内産業の発展性などについて訴えた。そして最後に、参加した外国報道関係者に向けて「今後、海外メ

ディア向けプレスツアーを10回以上用意しているの、ぜひご参加いただきたい。また、サミットをきっかけにたくさんの方々に三重県を訪れてもらえるよう、準備を進めたい」と述べた。

参加者からは、サミットの役割や議論の中身、サミットに要する費用負担、地元住民の理解を得るための方策、伊勢神宮の宗教性と精神性などについて質疑があった。また、海外メディアへの対応について聞かれ、「海外メディア関係者へのおもてなしは非常に大事。なるべく不便をかけないよう、そしておいしい食事で満足してもらえるよう努力する」と述べた。

③関西プレスクラブにおける知事講演

日 時：平成28年1月29日（金） 12時30分から14時まで

場 所：ヒルトン大阪

参加者：約100名（在阪の報道関係者、企業・団体関係者等）

講演に先立ち、参加者による昼食会が行われ、メイン料理には「松阪牛のローストビーフ」が提供された。

冒頭、鈴木知事が、伊勢志摩サミットの概要や開催県としての取組状況の説明のほか、伊勢神宮や海女など三重の魅力についてPRした。特に、関西と三重の関わりについて、三重は関西圏と中部圏の両方にアクセスが充実していることを取り上げ、「関西からの観光客が増加しており、道路網の整備などにより今後ますます期待できる」と説明した。また、ポストサミットに向けた取組として、「関西国際空港経由のインバウンド増加や、リニア新幹線の東京～大阪間同時開業への働きかけなど、関西地域全体の活性化を目指したい」との考えを示した。また「各国首脳にはぜひ伊勢神宮を訪問してほしい」と繰り返し述べた。

参加者からの「サミットを通じて関西の近隣県とどう連携するか」との質問に対し「関西国際空港からのインバウンド増加に向けて、他県と連携して伝統・文化をテーマにした周遊ルートをつくりたい。また、滋賀県と連携して伊賀・甲賀の忍者をPRしたい」と述べた。また、「ポストサミットに向けたアイデアや構想は」との質問に対し「観光客を呼び込む発地対策は県などの広域自治体が担うので、受け入れ態勢を充実させる着地対策は地元自治体や観光事業者等に取り組みをお願いしたい」と述べた。



関西プレスクラブでの会見



提供された松阪牛のローストビーフ

サミット裏話・こぼれ話 ～三重の食の多様性～

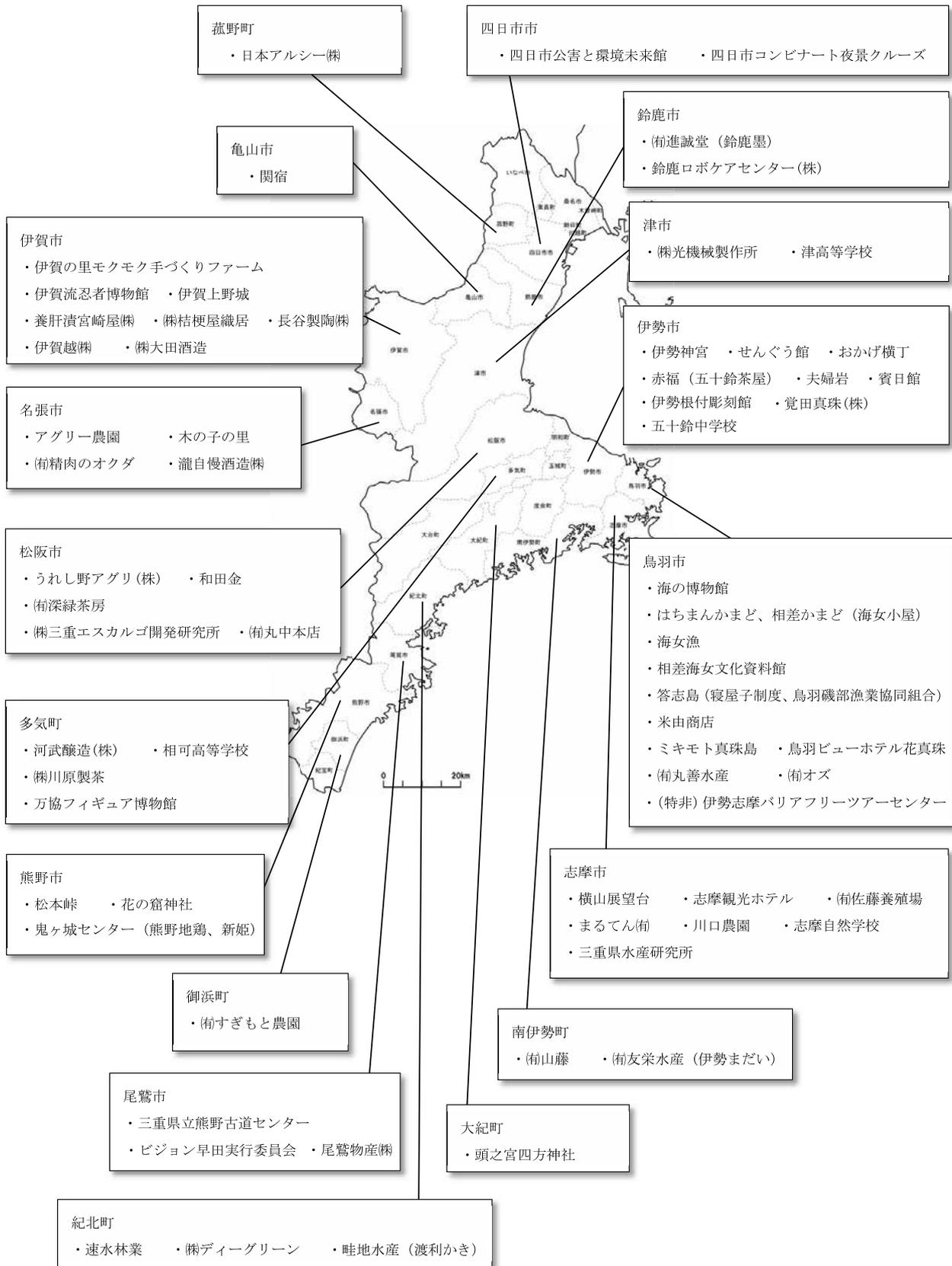
中東（エジプト、トルコなど5カ国）の報道機関を招いたプレスツアーでの一幕をご紹介します。

中東、特にイスラム教を信仰されている方は、宗教上の理由から、日本とは食文化が大きく異なる部分があります。

担当者も当初は不安に感じていましたが、日本茶を提供した際、皆さん美味しそうに飲み干されており、お茶をたてる器具を購入された方もいらっしゃいました。さらに、一部記者は、自身のSNSで抹茶の写真を公開したところ、すぐに多くの反響があったと話していました。

このほか、海女小屋を視察した際はアワビなどの海産物も美味しそうに食べられており、三重の食は様々な方に受け入れられる多様性を持っていると実感しました。

海外プレスツアー各市町別取材箇所



6 海外メディア等を活用した情報発信

伊勢志摩サミット開催を、海外に三重県を認知・理解していただくための千載一遇の機会と捉え、海外メディア等を通じ様々な手法で、サミット開催地三重県の魅力をPRした。

(1) 有料広告事業の展開

①サミット開催準備期間

サミット開催に向けた機運醸成のため、海外有力ニュース誌への広告掲載や国際線機内での機内誌、映像等によるPR活動を行った。



ニュースウィーク紙に掲載された三重県広告と鈴木知事インタビュー記事

②サミット開催期間（5月下旬）

三重県や伊勢志摩への注目が特に高まるサミット開催期間に集中的なPR活動を行った。

- ・ A P 通信社による映像等の制作及び配信〔5月24日(火)〕
外国人の視点による三重県PR映像を作成し、関連する写真とともに世界の主要メディアに配信した。
- ・ ジャパンタイムズ紙への広告掲載〔5月25日(水)〕
同紙サミット特集号に約2ページのカラー広告（うち純広告は1/3ページ）を掲載し、三重県の観光をPRした。
- ・ ウォール・ストリート・ジャーナル紙への広告掲載〔5月26日(木)〕
同紙サミット特集号に1ページの白黒広告（うち純広告は1/4ページ）を掲載し、三重県の観光、ビジネスメリットをPRした。
- ・ フィナンシャル・タイムズ紙ウィークエンド版への広告掲載〔5月28日(土)〕
同紙トラベル欄に1/2カラー広告（純広告のみ）を掲載し、海外の購読者に対し三重県の観光をPRした。

【掲載された海外向け広告】



フィナンシャルタイムズ紙



ウォール・ストリート・ジャーナル紙

(2) 海外メディアへの取材協力

サミット開催決定後、海外メディアを通じた三重県の情報発信が1件でも多く行われるよう、海外メディアの取材ニーズに対応した取材先等の提案、調整等を行い、本県の持つ多様な魅力の記事化、映像化に努めた。

例えば、4月15日（金）にフィナンシャル・タイムズ紙、5月24日（火）にARDドイツテレビ及びAP通信社が知事インタビューを行い、記事や映像が発信された。

7 県内での情報発信イベント

県民の皆さんの伊勢志摩サミット開催の認知度向上を図るとともに、開催機運を盛り上げるため、県内で各種イベントを開催した。

(1) イオンモール東員でサミット開催200日前イベントを実施

平成27年11月7日（土）、8日（日）に、ワークショップ「伊勢志摩エコバック作り」、サミットパネルの展示、ノベルティの配布などを実施した。8日には、みえの国観光大使の吉田沙保里氏も参加してカウンタダウンボード除幕式を実施し、約500名の来場者があった。



カウントダウンボード除幕式



ワークショップ

(2) 三重県立みえこどもの城でサミット開催1ヶ月前イベントを実施

平成28年4月29日（金）に、こどもを中心とした3世代を対象として、サミットにちなんだ体験ブース設置、クイズイベント、世界の絵本読み聞かせなどを実施した。また、5月29日（日）までサミットパネル展を開催した。



体験ブース



絵本読み聞かせ

(3) 各種イベントへ出展

企業・団体や市町、県各部局などが開催するイベントにおいて、伊勢志摩サミットのブースを出展し、パネル展示やノベルティ配布を通じてサミットPRを実施した。

日程	内容	主催
平成27年10月14日（水）、15日（木）	神嘗奉祝祭へ出展	神嘗奉祝祭委員会
平成27年10月31日（土）、11月1日（日）	みなとオアシスとば Festa2015へ出展	みなとオアシスとば Festa2015 実行委員会、みなとオアシス全国協議会
平成27年11月20日（金）、21日（土）	みえリーディング産業展2015へ出展	みえリーディング産業展2015 実行委員会
平成27年12月27日（日）	年末・きいながしま港市へ出展	年末・きいながしま港市実行委員会
平成28年2月12日（金）	伊勢志摩サミット開催・ICETT設立25周年記念事業「ASEAN環境フォーラムin三重」を共催、出展 翌2月13日（土）には伊勢志摩の視察を実施	三重県、公益財団法人国際環境技術移転センター（ICETT）、四日市市 ※共催にて開催
平成28年2月21日（日）	伊勢志摩サミット開催記念 第9回美し国三重市町対抗駅伝・市町交流市場（物産展）へ出展	美し国三重市町対抗駅伝実行委員会

日程	内容	主催
平成28年3月20日(日)、21日(月)	伊勢志摩サミット応援Day！へ出展 (MieMu 無料開放)	東邦ガス株式会社・東邦液化ガス株式会社
平成28年4月15日(金)～18日(月)	伊勢志摩サミット開催記念みえ伊勢志摩フェアにペーパークラフト展・サミットパネルを出展	イオンリテール株式会社



みなとオアシスとば Festa2015 へ出展



ASEAN環境フォーラムを共催



美し国三重市町対抗駅伝へ出展



伊勢志摩サミット開催記念みえ伊勢志摩フェアにペーパークラフト展を出展

8 県外での情報発信イベント

伊勢志摩サミットに向けて県内のみならず県外でもサミットの開催を広く周知するとともに、三重県、伊勢志摩の魅力ある情報を発信することにより、県外でのサミットの認知度を向上し、三重県への関心を高め、開催機運の醸成を図った。

(1) 三重テラス（東京）での150日前イベント

サミット開催150日前を、首都圏をはじめ全国的な話題性を向上させる時期と位置付け、首都圏のメインイベントとして、三重県のアンテナショップである三重テラスにおいてサミット開催記念イベントを実施した。

日 時：平成27年12月27日（日）、28日（月）

場 所：三重テラス（東京都中央区日本橋）

参加者：約460名

初日の27日は「三重の誇り！食を欲張り体感！」と題し、大口志摩市長による伊勢まぐろ解体ショー・ふるまい、第66回松阪肉牛共進会優秀賞一席（落札額3,310万円サミット価格）の試食、県産いちごやみかん・伊勢茶の試食・試飲・販売、赤福餅販売、ひなたやけ・あらめ巻等の試食などを行い、三重が誇る食を肌で感じていただくとともに、サミット紹介パネル展示、伊勢志摩地域紹介パンフレット配布などを行った。

翌28日には、鈴木知事、外務省の溝渕総括次長、みえの国観光大使の堀口文宏氏により、サミットに関するトークセッションを行った。トークでは、溝渕総括次長から「首脳の仕事の乾杯のお酒は、必ず三重のお酒で。」との発言もあった。

約60名が参加し、アンケートにも多くの方々が「大変良かった」「関心が深まった」と回答するなど、サミットや開催地伊勢志摩についての理解を深めていただくことができた。



伊勢まぐろ解体ショー



トークセッション

(2) その他の県外イベントでのPR

上記以外にも、県外でのさまざまなイベントにおいて、伊勢志摩サミットのPRに関するブースを出展したり、伊勢志摩サミットノベルティグッズを配布するなど、サミットのPRに努めた。主なものは以下のとおり。

日程	地域	内容	主催
平成27年12月20日(日)	東京	「宮城県×広島県×三重県」牡蠣競演イベントへ出展	宮城県、広島県、三重県
平成28年1月26日(火)	東京	平成28年三重県観光交流会へ出展	三重県観光キャンペーン推進協議会
平成28年2月13日(土)、14日(日)	東京	伊勢志摩サミット開催100日前記念 三重県フェア～実はそれ、ぜんぶ三重なんです～へ出展	三重県雇用経済部
平成28年3月6日(日)	大阪	三重もんづくし!うまいもん おもしろもん 祭!へ出展	三重県関西事務所
平成28年3月8日(火)、9日(水)	名古屋	第47回 中部マーケティング会議へ出展	中部マーケティング協会
平成28年4月7日(木)、8日(金)	東京	JA三重マルシェへ出展	JAグループ三重
平成28年4月8日(金)から5月29日(日)の間で5回	各地エリア	伊勢志摩サミット開催記念みえ伊勢志摩フェアにペーパークラフト展を出展	イオンリテール株式会社



伊勢志摩サミット開催100日前記念
三重県フェア



三重もんづくし! うまいもん おもろいもん 祭!

9 海外ミッションの機会等を利用したPR

三重県でのサミット開催をアピールするとともに、三重県の知名度向上を図るため、県が主催する海外ミッションにおいてサミットに関するPRを行った。

(1) ヨーロッパ訪問

「食と祈りの食卓」をテーマに開催されたミラノ国際博覧会（ミラノ万博）日本館への三重県の出展に合わせて、平成27年7月1日（水）から8日（水）にかけて、イタリア、フランス、イギリスに経済ミッション団を派遣し、新たなネットワークを構築し、海外展開の一層の促進を図るとともに、開催決定から間もない伊勢志摩サミットのPRを各地で行った。

イタリアでは、ミラノ国際博覧会三重県出展オープニングセレモニー及びミラノ市内で現地の行政関係者、食関連企業、日系企業等を招待して開催したレセプションにおいて、三重の食の魅力紹介とともに、伊勢志摩サミット紹介動画（イタリア語版）を上映し、サミットをPRした。

フランス・パリでは、前日に産業連携に関する覚書（MOU）の締結を行ったヴァルドワーズ県の関係者や、現地企業、日系機関の関係者等を招待し、三重県の魅力をPRするレセプションを開催し、松阪牛や三重県産日本酒、伊勢茶の振る舞いや真珠の展示、忍者の実演と合わせて、伊勢志摩サミット紹介動画（フランス語版）を上映して、サミットのPRを行った。

また、イギリスでは、ロンドンにて三重県ビジネスセミナー・交流会を開催し、英国企業、英国政府関係者及び現地進出日系企業等を対象に、鈴木知事や県内企業から三重県の産業や企業等の技術の強みのプレゼンテーションを行ったほか、伊勢志摩サミット紹介動画（英語版）でサミットをPRした。

(2) ニューヨーク訪問

2016年の伊勢志摩サミット、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて高まりつつある日本の魅力を発信することを目的に、平成27年9月28日（月）、アメリカ・ニューヨークで、日本貿易振興機構（JETRO）主催の経済セミナーが開催された。当日は、現地企業関係者、メディア関係者等、約300名が

出席し、自治体からは三重県のほか、横浜市がプレゼンテーションを行った。

セミナーの冒頭では、安倍総理が挨拶を行い、日本市場の魅力をPRし、伊勢志摩サミットで、さらに魅力を増した日本を見せるとの決意も表明された。

鈴木知事からは、①三重県の素晴らしさやポテンシャル、②サミットにおいて三重県から発信するメッセージやサミットを通じた三重県のビジョン、③シンガポール、マレーシア、中国などアジア地域と比べた三重県のビジネス環境の優位性の3点について、プレゼンテーションを行った。

また、会場では三重県のブースを出展し、ポスター掲示やポストカードの配布等を通じて伊勢志摩サミットをPRするとともに、伊勢茶の試飲等を通じた「伝統文化」のPR、NAND型フラッシュメモリー等の「革新技術」のPR等を行った。

そのほか、アメリカ国務省のG7担当者のドッドマン補佐官や高橋ニューヨーク総領事・大使を訪問し、三重の魅力のPR等を行った。

行事名	ニューヨーク経済セミナー
日時	平成27年9月28日(月)
場所	ニューヨーク・アスレチック・クラブ
主催	日本貿易振興機構(JETRO)
参加者	安倍総理、鈴木知事、林横浜市長、現地企業関係者、メディア関係者等 計約300名



フランス・パリのレセプションにおける
松阪牛の炙り寿司の提供



ニューヨーク経済セミナーでのプレゼンテーション

(3) タイ訪問

平成27年11月19日(木)から22日(日)にかけて、伊勢志摩サミット開催の好機を活かし、本県の観光誘客や食の販路開拓のトップセールスなどを行うため、タイを訪問した。

四日市港利用促進協議会がバンコク市内で開催した四日市港セミナーでは、伊勢志摩サミットを紹介する動画を上映し、サミットをPRするとともに、四日市港管理組合の管理者でもある鈴木知事から四日市港及び三重県の工業実績や観光の魅力を紹介するプレゼンテーションを行った。



四日市港セミナーにおける
伊勢志摩サミット紹介動画の上映

(4) 香港及び台湾訪問

伊勢志摩サミット開催の好機をとらえ、新たな連携ネットワークを構築するとともに、三重県の食の販路拡大、観光誘客、産業等に関するトップセールスを行うため、日本にとって最大の食品輸出先（日本からの食品輸出の約25%）である香港を、また、これまでに構築した台湾との連携ネットワークを台湾中南部にも拡大するため、台湾の台東県及び高雄市等を訪問した。

香港では、平成28年1月20日（水）に、イオンストアーズ香港で開催された三重県フェア開催記念セレモニーに鈴木知事が竹上松阪市長とともに出席し、伊勢志摩サミットの開催をPRするとともに、松阪牛をはじめ、真珠、お茶、日本酒、牡蠣等の県産品のトップセールスを行った。

また、台湾でも、サミット開催地の大口志摩市長や岡本伊賀市長とともに台湾南東部の台東県を1月21日（木）に訪問し、台東県と志摩市、伊賀市3者の自治体間連携覚書（MOU）の締結に鈴木知事が立ち会い、伊勢志摩サミット開催を契機とした新たなネットワークを構築するとともに、伊勢志摩サミットによる知名度向上を生かしたトップセールスを行った。



イオンストアーズ香港でのPR



台東県と志摩市、伊賀市3者の自治体間連携覚書（MOU）締結式

10 情報誌の発行

伊勢志摩サミットの開催に向け、国内外の報道関係者及び各国代表団等に、三重県に対する関心を高め、理解を深めていただくため、三重の多彩な魅力を紹介した2種類の三重県情報誌を日本語版と英語版でそれぞれ作成し、配布した。どちらの情報誌も「人」を中心に構成することで、「三重県人」「三重県を愛する人」から三重県の情報を発信した。

(1) 「CLOSE UP MIE」

プロローグ版として、三重県が誇る歴史、文化、伝統、食、先端技術を、伝統と革新に関わる「三重県人」にフォーカスして発信した「CLOSE UP MIE」を平成27年10月に発行した。10月27日（火）に外務省飯倉公館で開催した「伊勢志摩サミット開催レセプション～三重へのいざない～」(P81参照)などで配布した。

内 容：「三重県人」にフォーカスして、三重の「伝統と革新」を発信

- ・伊勢志摩エリア お伊勢さんのおもてなし、海女の思い、真珠王
- ・中南勢エリア 松阪牛の食文化
- ・伊賀エリア 伊賀流忍者
- ・北勢エリア 国際レーシングコース、四日市公害からの再生
- ・東紀州エリア 熊野古道を語り継ぐ
- ・三重の先端技術 国産リージョナルジェット機MRJ

規 格：A4判、12ページ

発行部数：日本語版2,000部、英語版2,000部

(2) 「和～THE SPIRIT OF WA～」

三重県を愛する人へのインタビューを通じて、「伝統と革新」を兼ね備えた三重県を感じていただく内容とし、「伊勢神宮」「伝統、文化と自然」「食」「先端技術」「おみやげ」の5つのテーマを中心として、三重県ならではの多彩な魅力を発信する「和～THE SPIRIT OF WA～」を平成27年12月に発行した。

内 容：三重県を愛する人へのインタビューを通して、三重県の魅力を発信

- ・宮澤 正明氏 伊勢神宮の紹介
- ・中田 英寿氏 地域別に伝統、文化、自然等の紹介
- ・村林 信吾氏 特選食材、食文化の紹介
- ・錦見 泰郎氏 先端技術の紹介
- ・生駒 芳子氏 おみやげの紹介

規 格：A4判、40ページ

発行部数：日本語版10,000部、英語版10,000部



三重県情報誌「CLOSE UP MIE」



三重県情報誌「和～THE SPIRIT OF WA～」

(3) 配布・閲覧

国内外報道関係者及び各国代表団関係者等に配布したほか、伊勢志摩サミット開催レセプション、海外プレスツアー、ジュニア・サミットなど、サミット開催に向けた様々なPR行事や各国先遣隊、関係省庁、市町、伊勢志摩サミット三重県民会議構成団体にも配布した。

また、県民会議ホームページでも、快適に閲覧ができるよう電子ブック形式で各情報誌を掲載し、国内外に広く情報発信を行った。

11 PR動画の放映

伊勢志摩サミット開催を契機として、主に都市圏の人々及び訪日外国人をターゲットに、三重県を印象づけ、興味を持っていただけるように、三重県PR動画を制作し放映した。

(1) 動画の内容

伊勢志摩サミット三重県民会議の情報発信の基本コンセプトである「伝統と革新」をテーマに制作した。豊かな自然、食とともに、伊勢神宮に代表される「伝統」と先端産業に代表される「革新」が共存する地域であり、伝統を守りながらも革新を積み重ねることで進化してきた三重の姿を動画として表現した。

音声は日本語とし、英字テロップを挿入した。下記の場所での放映をするにあたり、動画時間はコンパクトに30秒とした。

(2) 放映場所

地域	放映場所	放映期間
首都圏	JR品川駅	平成28年5月23日(月)～29日(日)
	JR東京駅	平成28年5月1日(日)～31日(火)
	京成電鉄成田スカイライナー	平成28年5月1日(日)～31日(火)
中部圏	セントレア	平成28年3月1日(火)～5月31日(火)
	名鉄名古屋駅	平成28年5月23日(月)～29日(日)
関西圏	関西国際空港	平成28年5月1日(日)～31日(火)
その他	県民会議HP及びYoutube	平成28年3月1日(火)～



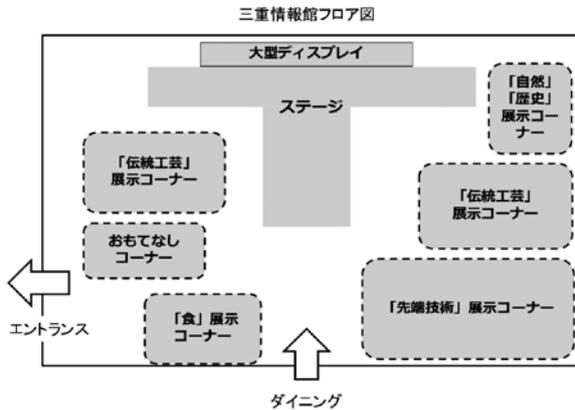
動画の一場面

上記の他、県民会議への協賛としてANAの国内線機内VTRで5月1日から31日まで放映していただいたのをはじめ、放映について多くの企業にご協力いただいた。

12 三重情報館

伊勢志摩サミット三重県民会議は、国内外の報道関係者を通じて三重の情報を世界に発信するための拠点「三重情報館」（英語表記：Exhibition of Mie）を国際メディアセンターアネックス内に開設した。

三重情報館では、大型ディスプレイを使った映像・展示物・実演等で、三重の情報を発信した。



フロア全景

(1) 準備

①調整経緯

会場については、多くの報道関係者が来場できるように、三重情報館をアネックス内の動線上に配置することを外務省に要望し、アネックス内のダイニング及びエントランスに隣接する空間（約350㎡）に開設することになった。

②コンテンツ選定委員会の設置

展示コンテンツを選定するため、県民会議では、学識経験者等6名で構成されるコンテンツ選定委員会を県民会議事業推進部会の下に設置した。委員の人選については、各分野に精通しているだけでなく、三重の宝や誇りといえる魅力を国内外の報道関係者がより関心を持てる方法でどのように発信するかという視点で判断いただける方々をお願いした。

選定委員会は非公開で3回開催し、展示コンセプト、展示カテゴリ、コンテンツの選定基準（独自性、先進性、優位性、将来性、基本コンセプト及び展示コンテンツとの調和）等を決定し、企業や関係団体等から応募・推薦のあった181件の展示物等の中から63件を選定した。

(ア) 選定委員（五十音順）

生駒芳子氏	FUTURADITION WAO プロデューサー
大川吉崇氏	学校法人大川学園理事長
坂美幸氏	月兎舎 季刊「NAG I」編集長
田中里沙氏	株式会社宣伝会議取締役副社長兼編集室長
西村訓弘氏	国立大学法人三重大学副学長【委員長】
丸川竜也氏	株式会社イストグラフ代表

※所属・役職は平成28年1月時点

(イ) 展示カテゴリ及びコンテンツ数

展示カテゴリ	コンテンツ数	主なコンテンツ
自然	4	伊勢志摩の自然、真珠等
歴史・文化	9	伊勢神宮、海女、伊賀流忍者等
伝統工芸	8	伊賀くみひも、伊勢形紙、四日市萬古焼等
先端技術	20	断熱・保温ペイント、TMPS®担持触媒 [※] 等
食	22	伊勢えび、伊賀米コシヒカリ、松阪牛等

※TMPS (メソポーラスシリカ) の細孔内に金属ナノ粒子を担持した常温触媒。植物老化ホルモンであるエチレンを分解し、野菜の鮮度を保つ。

(2) 概要

①コンセプト

三重情報館の基本コンセプトは「伝統と革新～“和”の精神～」とし、三重の歴史、多様で豊かな文化、自然、食、産業等における「伝統と革新」を「和の精神」という切り口で捉え、「静と動」の織り成す三重の多様な魅力を発信することとし、展示コンセプトは、「いつまでも瑞々しくて若々しい『常若』思想に根付く『三重』の『姿』『技』『食』－『伝統』を守りながらも『革新』を積み重ねることで進化してきた－」を伝えることに決定した。

②展示構成

(ア) 映像 (大型ディスプレイ)

インパクトのある映像で来場者の目を惹きつけるため、入口正面に大型ディスプレイ (高さ2.5m、幅9m) を設置し、日本人の心のふるさと三重が育ててきた精神性について、伊勢神宮を中心とした、自然との共生、多様な価値観や文化との調和、おかげさまという感謝の心、平和への祈りといったメッセージ、三重の自然と食、三重のものづくりについて、3種類の映像 (各4分程度) で表現した。来場者からは「映像美が素晴らしい」とのコメントを多数いただいた。



大型ディスプレイ

また、大型ディスプレイを活用して、伝統工芸の実演時に手元を大型ディスプレイに映し出したり、フォトロケーションとして忍者や熊野古道の大型画像を背景に記念写真撮影を実施できるようにした。

(イ) 実物

伝統工芸については、国指定の伝統的工芸品である5品目 (伊賀くみひも、四日市萬古焼、鈴鹿墨、伊賀焼、伊勢形紙) に加えて、三重県指定の伝統工芸品を展示した。

先端技術については、三重県内の企業から応募のあった中から、世界に誇るべき最先端技術を用いた高度部材製品を中心に、選りすぐりの技術を紹介した。



伝統工芸



先端技術

(ウ) 実演・振る舞い

伊勢神宮の宇治橋をイメージした、尾鷲ひのき（FSC認証）を使ったステージでは、伝統工芸をはじめ様々な実演等を行い、来場者が出演者と双方向で交流する場を提供した。

【5月25日（水）】

○鈴鹿墨を使った書の実演

書道家の万代香華氏が書道パフォーマンスを行い、「常若」を縦2.4m×横1.8mの紙上に書き上げる様子を約80名が見学し、作品を会場内に展示した。その後、書の実演（万代氏がうちわに漢字を書いてプレゼント）を2回行い、約60名が参加した。来場者からは、「墨の香りがよい」「書の実演はとても躍動感がある」とのコメントや、うちわプレゼントでは子どもの名前や「調和」「平和」といった文字のリクエストがあった。



書のパフォーマンス



うちわプレゼント

○日本酒の振る舞い

三重県内全35歳の日本酒の試飲を実施し、約260名が参加した。酒杯には萬古焼の「ぐい呑み」を使用し、試飲後にプレゼントした。来場者からは、「とても美味しい、素晴らしい」「日本酒は種類とフレーバーが豊富で楽しい」との好意的な感想をいただいた。

また、先端技術コーナーでは濃縮日本酒「作」を振る舞い、約60名が試飲した。

【5月26日（木）】

○伊勢形紙の実演

伝統工芸士の小林満氏が伊勢形紙の実演を行い、約190名が見学した。来場者からは「集中力が素晴らしい」「日本の技術の高さや優雅さに圧倒される」等の感想をいただき、特に女性は伊勢形紙が着物の

デザインになるというストーリーに感動している様子であった。



日本酒振る舞い



伊勢形紙実演

○忍者ショー

伊賀忍者特殊集団「阿修羅」が忍者ショーを実施した。約150名が見学し、動きのあるアトラクションに見入っていた。来場者からは「運動能力がとても高く、驚いた。楽しかった」「忍者は映画で観たことがあった。ハイレベルで運動能力が高く、非常に感心した」とのコメントをいただいた。

【5月27日（金）】

○伊賀くみひもの実演

伝統工芸士の前沢恵津子氏が伊賀くみひもの実演を行った。伝統工芸士の匠の技とともに伝統的な組台で美しく染め上げられた絹糸が織りなす「組み」独自の風合いを、約30名の来場者に感じていただいた。



忍者ショー



伊賀くみひも実演

○海女のトークショー

配偶者プログラムに参加した海女（鳥羽市答志島：橋本加津代氏、濱口ちづる氏）のトークショーを実施し、約50名が見学した。トークショーでは、海女漁の姿が理解できるよう、実際に使われている道具を展示するとともに、海女さんには、生命の源である美しい里海を守り、伝統を守りながら生活する海女文化について語っていただいた。

【5月25日（水）～28日（土）】

○呈茶のおもてなし

伊勢木綿の着物を着た外国語案内ボランティアが、伊勢茶を約1,200名、餅を約800名に提供し、来場者は伊勢木綿の布を敷いたベンチでくつろぎ「伊勢茶はとても美味しい」と評判だった。

また、27日（金）には、配偶者プログラムの実施と併せて、中森慰氏（三重県手もみ茶技術伝承保存会会長）が手揉み茶の実演を行い、来場者からは「ずっと揉み続けるのはすごい」「とても美味しい。エスプレッソのようだ」とのコメントをいただいた。



海女トークショー



呈茶サービス

(工) その他展示ツール

【空間演出】

会場中央にある2本の柱には、佐々木直喜氏（アーティスト）による「光柱のドウダンツツジ」、高根京子氏（書家）による書「心」「和」で、三重の自然の美しさを表現した。また、会場内に尾鷲ヒノキのチップを仕込んで香りの空間を演出した。

【食・日本酒コーナー】

食・日本酒コーナーでは、首脳や配偶者に提供された食や酒について即時に「首脳に提供されました」等のラベルを添付して情報館で掲示し、来場者の注目を集めた。

【小型ディスプレイ】

40インチディスプレイで、伊勢神宮、齋宮、海女、伊勢志摩の自然、熊野古道、先端技術、伝統工芸を紹介した。

【Pepper】

三重県庁臨時職員である人型ロボットPepperが三重情報館の案内役として参加し、来場者が伊勢音頭を楽しんだり、記念撮影をするなど、人気を集めた。

【仮想試着システム】

ディスプレイ装置を活用した伊勢木綿の着物や忍者衣装の仮想試着サービスを提供し、海外報道関係者を中心に喜ばれた。

【PONTANA】

デジタル情報スタンド「PONTANA」を活用して、展示コンテンツの詳細情報や三重の観光情報を電子データで提供し、来場者が各々のスマートフォンに欲しい情報を取り込んでいた。



光柱のドウダンツツジと「和」



光柱のドウダンツツジと「心」



Pepper



PONTANA

(3) 来場者数

三重情報館は5月24日（火）8時から5月28日（土）正午までの5日間開設し、延べ12,729名の来場者を集めた。

22日（日）の開所式の際には内閣官房長官が視察した。また、27日（金）には配偶者プログラムでカナダ首相及び欧州理事会議長の夫人及び安倍総理夫人が三重情報館を訪れ、知事夫妻が案内した。期間中は県内報道関係者を中心に、在京報道関係者からも多数の取材を受けた。さらに、閉館した29日（日）以降も様々な新聞やテレビで三重情報館の内容や取組が紹介された。なお、海外報道関係者は政治記者が中心であることもあり、三重情報館自体の取材を行う海外報道関係者は少なかった。

来場者数及び開館時間

5月24日（火）	1,126名（うち外国人 12名）	8時～22時
5月25日（水）	3,672名（うち外国人 324名）	8時～22時
5月26日（木）	4,889名（うち外国人 586名）	6時～22時
5月27日（金）	2,880名（うち外国人 280名）	6時～22時
5月28日（土）	162名（うち外国人 0名）	8時～12時

※集計方法は1時間のうち10分間の来場者数をカウントして6倍した

※来場者は報道関係者のみをカウントした

(4) アンケート調査

5月25日(水)から27日(金)までの3日間、三重情報館を訪れた海外報道関係者等(NGO含む)に対して、アンケート調査を実施し、32名から回答を得た。なお、快適に三重情報館を楽しんでいただくため、アンケートについては定量的な集計を目的とせず、海外報道関係者の感想を聞くことを目的とした。

三重情報館全体の印象としては、「伝統的なものと新技術の両面が見事である」「自然豊かなポルトガルの郊外に住んでいるので、自然と共生する三重の感覚がよく伝わってきた」等の意見があった。

関心の高かった展示物及び実演は、フリクションペン(6名)、伊勢形紙(4名)、忍者ショー(4名)、鈴鹿墨による書のパフォーマンス(3名)、TMPS®担持触媒(3名)であり、母国に発信したい情報としては、フリクションペン(3名)、三重の食(2名)との回答であった。

(5) 一般公開

サミットの現場を、次世代を担う県内小・中・高等学校生をはじめ、県民の方々に肌で感じていただくため、サミット終了後の5月30日(月)から6月10日(金)まで、国際メディアセンターアネックス(以下、IMCアネックス)を部分的に公開した(外務省と伊勢志摩サミット三重県民会議との共催事業)。

①公開施設

IMCアネックス1階(三重情報館、政府広報展示スペース、ダイニングスペース)

IMCアネックス2階(ブリーフィングルーム)

②公開の対象・期間・参加者

【県内小・中・高・特別支援学校の児童・生徒】

平成28年5月30日(月)から6月10日(金)まで(平日のみ)9時から16時まで

参加者数33校 2,424名(引率者含む)

【子どもふるさとサミット参加者及び三重の高校生サミット参加者】

平成28年6月4日(土)9時から14時まで 参加者数103名(保護者含む)

【一般県民等】

平成28年6月4日(土)13時から16時まで、5日(日)9時から16時まで 参加者数1,040名

③見学方法等

見学者は、初めに2階のブリーフィングルームにおいて、「サミット塾」と題して、サミット期間中の最新映像を見ながら、具体的にサミット期間中に行われたことや各国首脳が話し合ったことなど、サミットについて外務省職員から説明を受けた。

その後、20人~30人を一グループとし、係員の誘導・説明によるツアー形式で各公開エリアの見学を順次行った。

公開エリアのうち、1階の三重情報館や政府広報展示スペースでは、外国人記者の方々を通じて世界に情報発信した、三重県や日本の“伝統と革新”について、展示物や映像を通じて学び、再発見できるようにした。

また、1階のダイニングスペースでは、サミット当日の様子を伝えるパネルや実際に首脳会議で使われたテーブルと椅子が展示され、サミットの雰囲気を実感できるようにした。



ブリーフィングルーム



三重情報館

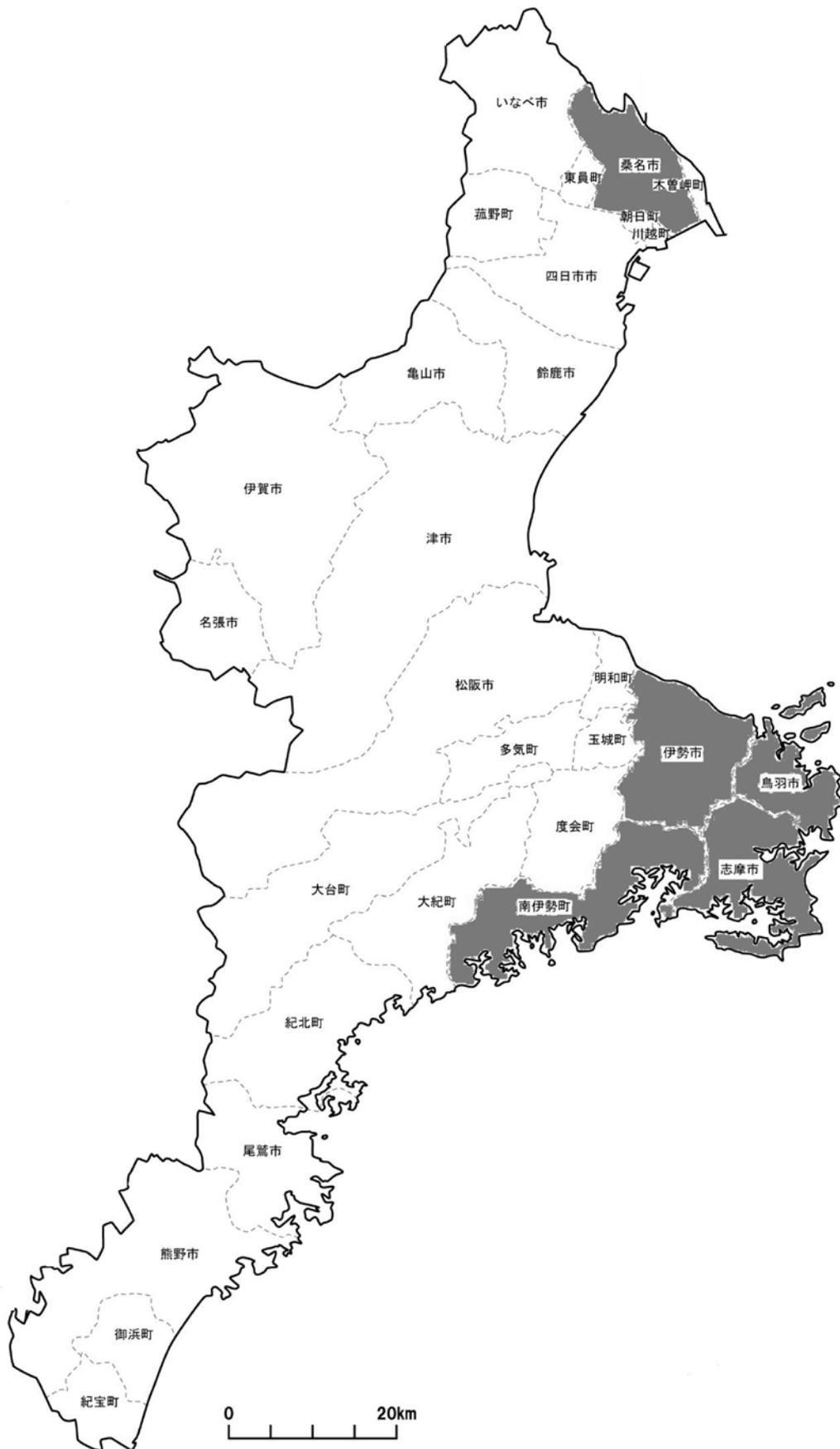


政府広報展示スペース



首脳会議で使われたテーブルと椅子を展示

第6章 市町の取組



1 地元4市町（志摩市・伊勢市・鳥羽市・南伊勢町）及び桑名市の取組

（1）志摩市の取組

①志摩市の取組体制

（ア）伊勢志摩サミット推進本部

平成27年6月19日（金）、全庁を挙げてサミット関連事業の推進に取り組むべく、伊勢志摩サミット推進本部を設置した。本部は部長級以上の職員で構成し、本部長を市長とした。本部会議は、サミット開催までに10回開催した。

（イ）サミット推進室

平成27年6月24日（水）、サミットの成功に向け、市内の取組推進や国・県との調整を図るべく、企画部（平成28年4月から政策推進部）内にサミット推進室を設置した。

（ウ）伊勢志摩サミット調査推進特別委員会

サミット開催自治体の議会として、市民の要望や不安等に応え、又情報を共有することなどを目的に、平成27年9月1日（火）、「伊勢志摩サミット調査推進特別委員会設置に関する決議について」が本会議において可決され特別委員会が設置された。特別委員会はサミット開催までに8回開催された。

②伊勢志摩サミット市民会議～光輝く志摩づくり会議～

（ア）市民会議の設立と会議の開催

平成27年7月3日（金）、志摩市の多くの関係者がサミットの成功及びサミットを生かした地域づくりのために集い・考え・行動するための会議として、官民一体となった「伊勢志摩サミット市民会議～光輝く志摩づくり会議～」が設立された。44の構成団体からなり、会長は市長、副会長は市商工会長、市観光協会長、市自治会連合会長が務めた（事務局は志摩市）。

第1回総会では、市民会議の基本方針として、「開催地にふさわしい環境の整備」、「観光地『志摩』の世界への発信」、「サミット開催を契機とした志摩づくり」、「伊勢志摩サミット三重県民会議との連携」という4つの柱が確認された。この方針に基づき具体的に検討・実施していくことを目的に、下部組織として、「まちの雰囲気づくり部会」、「ひらかれた観光地づくり部会」、「未来に続く志摩づくり部会」の3つの部会が設置された。また、サミット開催100日前を迎えるにあたり、記念イベントを企画する実行委員会も設置された。

(イ) 取組内容

a 開催地にふさわしい環境の整備

【市民会議シンボルマーク】

志摩市誕生10周年を記念して平成25年度に制定した「志摩市シンボルマーク」を期間限定でサミットバージョンに一部変更し、サミット開催に向け、市内における周知・啓発活動等に用いるシンボルマークとした。

＜シンボルマーク＞
志摩の「し」をモチーフに、豊かな自然環境と共生し、志摩の魅力を発信・PRするひろがり・笑顔を表し、志摩の目指す姿をイメージしている。



【歓迎機運の醸成】

サミット歓迎機運の醸成を図るため、市内各所にポスター、懸垂幕、横断幕、のぼり旗、歓迎看板や卓上旗などを設置した。また、県立志摩高等学校美術部の協力により「志摩らしさ、賢島をイメージできる」カウントダウンボードを制作し、サミット開催250日前の時期を捉え市役所1階に設置した。各地域や団体により制



カウントダウンボード除幕式 (H27.9.17)

作されたウェルカムボードについても、市内の公共施設等において展示を行った。その他、広報紙「伊勢志摩サミット市民会議NEWS」を平成27年11月から毎月、全戸配布を行ったほか、サミットについて紹介するクリアファイルを児童・生徒全員へ配布した。また、市民会議シンボルマークをあしらったマグネットシート、ピンバッチ、ボールペン、マフラータオル等の物品を市民に配布するなど、さまざまな方法でサミット開催の周知啓発に努めた。

【市内清掃活動】

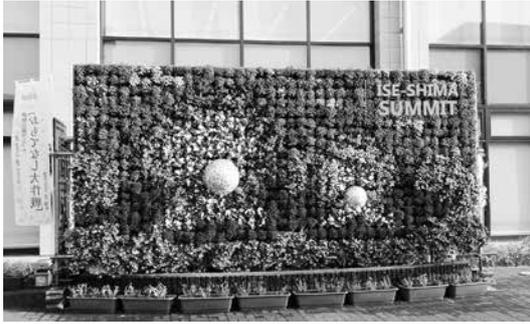
平成28年2月14日(日)、市内阿児ふるさと公園芝生広場において、県民会議主催で開催された伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」キックオフイベントに合わせ、市内一斉清掃活動を実施した。市内17か所で約2,000名の参加があり、約5トンのごみを回収した。その後、サミット開催までの間、各自治会や各団体・企業において、自主的な清掃活動が実施された。

【花いっぱい作戦】

サミットの開催にあたり、おもてなしの心と美しい花々で来訪者を歓迎するため、市内ボランティア団体等の協力の下、約30か所の花壇に花を植えた。また、市役所庁舎及び鶴方駅前広場にフラワーパネルを設置し、道の駅「伊勢志摩」前の国道167号沿いにはハンギングバスケットを設置した。市内全体が、約3万本の花でいっぱいになった。



＜ハンギングバスケット＞
道の駅「伊勢志摩」前の国道167号沿い



＜フラワーパネル＞ 市役所庁舎（左）・鵜方駅前広場（右）

b 観光地『志摩』の世界への発信

サミット開催150日前となった平成27年12月28日（月）に、8か国語に対応可能な市民会議のホームページを開設した。ホームページでは、市内のサミットに向けた取組の紹介のほか、志摩市の自然風景、伝統文化・祭、豊かな食材について情報発信を行った。また、観光パンフレットやPR映像の多言語化にも取り組んだほか、地元の産品を用いたお土産を紹介するパンフレットを作成するなど、広く志摩らしさをPRする取組を展開した。

c サミット開催を契機とした志摩づくり

未来に続く志摩づくり部会において、7回の市民ワークショップを重ね、今後の地域の活性化に向けた提言書を取りまとめた。

d 伊勢志摩サミット三重県民会議との連携

県民会議が実施する節目イベントやおもてなし大作戦、海外プレスツアー等の事業に対し、連携・協力を行った。

また、県の実施する住民懇話会において、警備関係機関とともに説明を行い、地域住民の理解・協力を求めた。

e 100日前記念イベント「志摩市まるごとおもてなしムーブメント」

サミット開催100日前を迎えるにあたり、記念イベントを企画する実行委員会を組織し、「志摩市まるごとおもてなしムーブメント」と題して、平成28年2月20日（土）、21日（日）に各5町地区で特色あるイベントを実施した。サミットの機会に来訪される多くの関係者や観光客の皆様を、市民一丸となってあたたかくお迎えできるよう、市民の「おもてなし」の機運醸成を目的として、各種企画に取り組んだ。また、開催100日前から開催日までの100日間、毎日、市民でカウントダウン映像をつなげていく企画にも取り組み、出演者は延べ約3,000名にもなった。終了後、これらの映像を一本の動画にまとめあげ、平成28年7月23日（土）の「第6回志摩の夏まつり」において、お披露目を行った。



100日前記念イベント時のカウントダウン撮影風景

③その他の主な取組

(ア) インフォメーションセンター

サミット開催に伴い、観光客や、サミット参加国のメディア関係者等の海外からのお客様の増加を想定し、平成28年4月16日（土）から5月28日（土）までの期間、近鉄鵜方駅1階旧観光案内所に、インフォメーションセンターを開設し、外国語対応が可能な職員を4名配置した。5月20日（金）から28日（土）までの期間には、県民会議の外国語案内ボランティアスタッフも配置され、連携して業務を行った。期間中、1日平均40～50名程度の利用があった。



インフォメーションセンター開設（H28.4.16）

(イ) 志摩市弁当協力会

海上警備に当たる海上保安庁第四管区海上保安本部から弁当供給の依頼が市商工会にあったことを受け、市内の飲食店や仕出し業者16業者が集まり平成28年2月に「志摩市弁当協力会」を発足した。志摩の食の魅力を発信すべく、アオサやヒジキ、豚肉など地域の食材を取り入れたメニューを考案した。その他、サミット関連業務を担った民間企業からの注文も含め、計1万8千食が提供された。

(ウ) 志摩市ナイト

平成27年11月11日（水）、東京都千代田区有楽町の日本外国特派員協会において、日本外国特派員協会主催、市観光協会後援により、志摩市の食と文化を海外の記者にPRするイベント「美しい志摩市の夕べ Shimashi Night」が開催された。来場者には、郷土料理のてこね寿司をはじめ、あのみぶぐや伊勢えびといった特産の食材を用いた料理がふるまわれた。また、大口市長による志摩産ワラサの解体や、現役の海女が磯着姿で登場し、アコヤ貝から養殖真珠を取り出してプレゼントするといった「志摩ならではの」の演出を取り入れた情報発信がなされた。

(2) 伊勢市の取組

①伊勢市

(ア) 取組体制

a 伊勢志摩サミット担当

サミット開催に向け、新設の部署は設けず、情報戦略局企画調整課にサミット担当職員を配置（平成27年6月24日（水）に1名、同年10月1日（木）に2名（管理職1名含む）の計3名）し、諸調整や業務を遂行した。

b 伊勢志摩サミット伊勢市庁内調整会議

平成27年6月15日（月）、サミットの円滑な実施を図り、伊勢市の観光振興及び地域経済の活性化に寄与するため、市長を会長とする「伊勢志摩サミット伊勢市庁内調整会議」を設置し、また下部組織としておもてなし部会、情報発信部会、安全対策推進部会を設け、各種準備・調整を進めた。

(イ) 取組内容

a おもてなし事業の実施

サミット開催にあたり、美しい花々で来訪者を歓迎するため、市内の団体が実施する花いっぱい作戦に係る花の購入支援や、国際メディアセンター周辺で花文字の植栽を実施したほか、伊勢市内において様々な歓迎装飾を市民とともに行った。

また来訪者を迎えるにあたり、Wi-Fi環境の整備やクレジットカード決済機器導入促進に係る取組を進めた。



伊勢市駅前の行灯もサミット仕様に装飾

b 伊勢の魅力発信

サミットの取材を予定している国内外の報道関係者に、伊勢市の魅力を伝え、自然や歴史、店舗、食、観光などの情報を取材していただき、情報発信を促進し、ひいては海外における伊勢市の知名度向上を図るため、平成28年2月1日（月）から6月15日（水）までの間、伊勢市情報発信センターを設置した。

独自のプレスツアーや首都圏でのプレスイベント、そして首都圏に向けての積極的なプレスリリースを実施したほか、伊勢市の観光資源や伝統工芸、食などの地域資源をそれぞれまとめたコンテンツシートや各種パンフレットを配布・閲覧できるようにし、伊勢市を訪れる国内外のメディア等に対して情報発信を行った。

また、訪問した報道関係者が快適に取材できるように伊勢市内の物産店や飲食店、宿泊施設などが取材協力や情報提供を行う「伊勢志摩サミットプレスサポーターズ～おもてなし100～」を組織し、積極的に情報発信をしたいという事業所を後押しした。



プレスツアーの様子



プレスサポーターズサミット開催直前決起集会

c 明日へつなぐ

未来を担う子どもたちにもこの地でサミットが開催されたことを記憶に留めてもらえるように様々な取組に参加・参画してもらった。

地元の高校生には、カウントダウンボードの製作、花いっぱい作戦での花の育苗など様々な協力を得た。

また、市立の小中学生に、世界に興味や関心をもってもらうため、サミット参加国にちなんだ「サミット給食」や啓発グッズにより世界に触れる機会の提供などを行った。



カウントダウンボード除幕式



啓発（サミット授業）の様子

d サミットに向けた各種準備

伊勢志摩サミットの公式行事や県民会議の行事の実施に向けた支援・協力を行った。

配偶者プログラムに向けては、伊勢音頭体験による交流を行うに際し、伊勢音頭保存会とともに伊勢っ子（観光客のおもてなしを学ぶ事業に参加した伊勢の子ども達）が練習会を開催し、本番に備えた。

また、市内の三重県営サンアリーナに国際メディアセンターが設置されることとなったため、それに係る準備等につき協力や各種調整を行った。

そして、サミットの開催を控え、伊勢市が設置する公共施設の管理者等への注意喚起と管理の徹底を促すための「テロ対策研修会」を実施するなど、テロ対策を推進するための取組も実施した。



伊勢音頭の練習の様子



研修会の様子

②伊勢志摩サミット伊勢おもてなし会議

平成27年7月31日（金）、サミットの開催を契機として、市民及び事業者の「おもてなし」の心を育むとともに、伊勢を訪れる方々を「おもてなし」の心を持って温かく迎えることにより、何度も訪れたい魅力あるまちにすることを目的として、「伊勢志摩サミット伊勢おもてなし会議」を設立した（事務局：伊勢市）。

構成員としては、教育・研究機関、商工業・観光等の各種団体、公共交通等事業者など合計14団体で、会長は伊勢市長、副会長は伊勢商工会議所会頭、顧問には伊勢市議会議長、オブザーバーは伊勢警察署が務めた。

伊勢志摩サミット伊勢おもてなし会議は、サミット開催まで合計5回開催され、吊下げ旗（バナー）や外国語指差し会話シートの作成、クリーンアップ作戦、花いっぱい作戦などの実施について決定した。



4種の指差し会話シート



花いっぱい作戦

(3) 鳥羽市の取組

①鳥羽市の推進体制

(ア) ～真珠養殖発祥のまち・海女が日本一多いまち～伊勢志摩サミット鳥羽おもてなし会議の設置

鳥羽市では、サミット開催に関するあらゆる対応を「おもてなし」と捉え、長い歴史のなかでつくりあげてきた「おもてなし」を最大限発揮することによってサミットの成功を目指すとともに、サミット開催後も長期間にわたり地域経済が好循環するよう「おもてなし」に磨きをかけることを目指し、「伊勢志摩サミット鳥羽おもてなし会議」を平成27年7月13日（月）に立ち上げた（事務局：鳥羽市総務課）。経済団体や交通事業者など10団体と市の関係課で構成され、会長は鳥羽市長、オブザーバには地元警察や海上保安部などの警備関係者等をお迎えした。

平成27年9月16日（水）には、鳥羽おもてなし会議に副市長を実行委員長とする実行委員会を設置し、会議で承認された事業計画を班体制で推進した。官民一体となった取組を行うため、市だけの推進本部等は設けず、あらゆる取組を鳥羽おもてなし会議で協議・実施したことが、まちの一体感を高める結果にもつながった。

サミット開催までに、会議を5回、実行委員会を3回開催したほか、実行委員会の班ごとに入念な打ち合わせを重ね、会議のサブタイトルとなっている「真珠養殖発祥」・「海女の数日本一」と、鳥羽の誇る「豊かな海がもたらす食文化」や「質の高いおもてなし」を掛け合わせて情報発信できるよう取組を進めた。

②鳥羽おもてなし会議の取組

(ア) 公式行事や県民会議主催行事に対する支援

a 配偶者プログラムの開催支援

女性をおもてなしすることが海女や真珠といった鳥羽の持つ女性的なイメージと合致したことなどから、鳥羽市では早くから配偶者プログラムの誘致にターゲットを絞り活動を行った。

平成27年8月28日（金）には、鳥羽おもてなし会議の役員が三重県知事を訪れ、海女100人によるお出迎え等を含むミキモト真珠島での実施提案書を提出し、知事に鳥羽での開催をアピールした。

こういった積極的な姿勢とプログラム当日までの外務省等との調整が実り、平成28年5月26日（木）に開催された配偶者プログラムでは、鳥羽志摩の海女・女将によるお出迎え、戦国の時代に名を馳せた九鬼水軍太鼓の披露、海女と配偶者との対話など、多くの市民と配偶者との交流が実現した。

配偶者の皆さんをお迎えするにあたり、真珠島入場口へウェルカムボードを設置し、島と鳥羽をつなぐパールブリッジには、池坊伊勢支部の皆さんのご協力のもと、鳥羽市指定天然記念物のカキツバタを活けていただくなど会場の装飾を行ったほか、記念撮影用横断幕を提供したことにより、鳥羽の名を公式行事の記録として世界に発信することができた。



配偶者プログラムの記念撮影



海女や女将が笑顔でお出迎え



九鬼水軍太鼓の披露



海女と配偶者との対話風景



ブリッジから見える坂手島で満開のカキツバタを表現



三重情報館に出演する鳥羽の海女

b 三重情報館への海女の出演

平成28年5月27日（金）、三重情報館実演プログラム「現役海女による講和と対話」に、鳥羽の海女2人が出演した。会場では、多くの報道陣から取材を受け、海女文化や鳥羽の海産物の魅力が世界中に発信された。



海女と真珠をあしらったピンバッジ・ミニのぼり

c まちの美化と歓迎機運づくり

公式行事等の開催に備え、平成27年度から清掃活動や花による美化等、まちの環境・景観整備を行うとともに、市内の観光施設、宿泊施設、店舗等にミニのぼりを設置し、従業員の方にはピンバッジを着用していただくなど、市民のおもてなし機運を高める取組を行った。

(イ) 鳥羽のプロモーション

「海女」、「真珠」、「食文化」に関する国内外向け情報発信を独自に行ったほか、県民会議等への積極的な働きかけにより多数の海外プレスツアーを呼び込むなど、サミット開催後の活性化を目指し、鳥羽市の魅力発信に努めた。

a 「真珠養殖発祥のまち」

平成28年3月16日（水）から5月9日（月）にかけて、鳥羽駅前前の鳥羽一番街で開催した「海女と真珠展」に合わせて、在京の海外プレスや各国大使館に、世界で最初に真珠養殖を成功させた御木本幸吉の功績を紹介した開催案内をメール配信し、真珠養殖発祥の歴史を認知していただいた。

また、配偶者プログラムがミキモト真珠島で開催される機会をとらえた情報発信も検討していたが、外務省による公式発表がなされなかったため、事前のプロモーションは実施できなかった。配偶者プログラム開催後の報道として、プログラムがミキモト真珠島で開催されたこと、安倍総理夫人から各国配偶者への贈呈品に鳥羽の真珠が採択されたことが大きく取り上げられたことから、鳥羽の真珠への注目が高まった。

b 「海女が日本一多いまち」

平成28年5月14日（土）、伊勢神宮に奉納する「のし鮑」用の鮑を海女が採取する儀式「御潜神事」の再現イベントに、鳥羽志摩の海女84人が鳥羽市国崎町に集まった。

国内外の多くの報道陣が取材に訪れ、その模様が報道されたほか、前日まで催行されていた外務省主催G7プレスツアー参加者を鳥羽おもてなし会議でお引き受けし、取材をしていただいた。イベント前後に市長からのブリーフィングや海の博物館での海女に関する説明なども加えることで、G7各国へユネスコ無形文化遺産登録を目指す「海女文化」の情報発信を行うことができた。

また、サミット取材メディアに鳥羽の印象が残るよう、国際メディアセンター利用記者に配布された「三重のおもてなしバッグ」に海女関連グッズを協賛したほか、市内の観光施設、宿泊施設、店舗及び希望者に「カウントダウン海女カレンダー」を配布し、話題提供に努めた。



御潜神事を再現する鳥羽志摩の海女



海女の取材をする
G7各国プレス



カウントダウン海女カレンダー

c 「食の宝庫」

日本古来より、鳥羽は「御食国（みけつくに）」、つまり食べ物がおいしい国と呼ばれ、他の地域が租税を米で納めていたのに対し、鳥羽は鮑や魚、海藻などの豊かな海の幸を、朝廷や皇室に納めてきた歴史を持つ。サミット開催を契機として、宿泊拠点としての鳥羽の国際的な地位を向上させることを狙い、食文化とその歴史背景を広く世界に発信する取組を行った。

平成28年5月18日（水）から4日間、「鳥羽の食」「料理人の技」「おもてなしの心」を世界へ発信するため、海外12カ国から20名の食・旅行関連メディアを招へいし、鳥羽マルシェでの歓迎晩餐会を皮切りとするプレスツアーを開催した。

またランド ハイアット 東京とのタイアップ企画により、伊勢えび、アワビ、サワラ、シラスなど当地域が誇る厳選食材を活用した「伊勢志摩厳選食材フェア」を平成28年4月1日（金）から30日

(土)の1ヶ月間開催し、首都圏の富裕層に向けPRを行った。フェアの開催にあたっては、三重県、伊勢市、志摩市、南伊勢町にも協力を呼びかけ、地域全体で取り組むことで、スケールメリットを生かした事業展開となった。



海外メディア歓迎晩餐会



ランチメニュー「まる三重海鮮丼」



“TOBA TIMES” トップページ

d 鳥羽の魅力の多言語化

サミット開催で注目が高まる鳥羽の観光・食・地域等の情報を、実際の外国人の取材により制作した英語版サイト“TOBA TIMES”を開設した。

(ウ) 記念イベント等の実施

a おみやげ開発

北海道洞爺湖町を視察した際、サミットに向け早目に準備していた事業者のおみやげがよく売れたとの声があったことから、民間事業者のおみやげ品開発に対する助成を行ったほか、鳥羽の魅力を熟知する旅館の女将と海女がセレクトしたおみやげ10選「～サミット各国に自慢したい！～鳥羽・新！おみやげセレクト」を発表した。選定された商品には「海女と女将の太鼓判！TOBA」のロゴマークを使用して販売できる特典を設けた。



おみやげセレクト選定結果発表ポスター

(4) 南伊勢町の取組

①伊勢志摩サミット南伊勢町民会議

サミットの成功を期するため、官民一体となった南伊勢町全体の受け入れ体制を確立するとともに、併せて関連する事業を実施することにより、サミット開催後も長期にわたり地域経済が好循環するよう、町の活性化及び地域の総合力の向上に資することを目的に、平成27年9月17日(木)、経済産業団体、地域の各種団体、行政機関および地域活性化団体が参加する「伊勢志摩サミット南伊勢町民会議」が組織され、「開催支援・おもてなし」「明日へつなぐ・南伊勢の発信」2つの部会を設置した。

②機運の醸成

サミット歓迎機運の醸成やサミット関係者を歓迎するため、歓迎装飾の取組を実施した。サミット開催150日前の平成27年12月28日(月)に役場庁舎へ歓迎懸垂幕を設置するとともに、サミット開催100日前の平成28年2月16日(火)に伊勢志摩サミット三重県民会議のシンボルマークと町のキャラクター「たいみー」を使用したのぼり旗を国道260号沿い等の12箇所に240本設置した。



のぼり旗の設置

③おもてなしの心でお出迎え

(ア) クリーンアップ作戦

サミット開催に伴い、国内外から訪れる方をきれいな環境でお迎えするため、サミット開催100日前ウィークを中心に、平成28年2月14日(日)、21日(日)、28日(日)の3日間で、町内37地区において1,259名の方に参加いただき、地区内のクリーンアップを実施した。

また、サミット開催30日前ウィークの4月23日(土)に123人のボランティア及び町職員の参加により、サニーロード鍛冶屋トンネル南伊勢側出口から県道磯部南勢線(神津佐)町境・県道南勢浜島線(下津浦)町境まで、道路沿いのごみ拾いを実施した。

(イ) 花いっぱい作戦

町内の小中学生が、サミット参加国の国旗のシールを貼ったプランターにパンジーを植え替え、G7サミットにちなみ、町内の公共施設18箇所にプランター7基ずつを配布し、おもてなしの心と美しい花々で訪れる方々を歓迎するための花いっぱい作戦を実施した。

平成28年4月には、町内の全保育所や愛洲の館周辺において、マリーゴールド、ペチュニア、金魚草の花苗を植え、花いっぱいでお出迎えの取組を行った。



クリーンアップ作戦



花いっぱい作戦

(ウ) 国道260号沿道整備ボランティア

国内外から当町を訪れる方々をきれいな海の景色でお迎えするため、サミット開催30日前ウィークの平成28年4月23日(土)に、国道260号や県道沿いの景観向上の取組として、南伊勢の路さくら活動隊が道路沿線の雑木伐採のボランティア活動を実施した。



南伊勢の路さくら活動隊によるボランティア活動



サミット給食の様子

④子どもたちが国際的な感覚を身に付けるきっかけづくり

町内の全小中学校において、各学校、学級での食教育につなげるため、サミット参加国の代表的な料理を給食のメニューに加えたサミット給食を、平成28年1月12日(火)から5月27日(金)までの期間において20回実施した。

5月14日(土)に伊勢市で開催された「子どもふるさとサミット」に、南島西小学校6年生の13名が参加し、自分たちの学校で全校児童がアジの開きを作る「あじっこ集会」や漁業体験、塩づくり体験などの取組を発表した。

⑤南伊勢町の魅力の発信

南伊勢町の外国語版パンフレットを作成し、外国人観光客等を受け入れる宿泊施設や観光施設、及び国際メディアセンターに設置した。

また、広域連携の取組として、伊勢志摩の各市町とともにホームページの多言語化(英語、中国語〔繁体・簡体〕、韓国語、フランス語)や国際メディアセンター発着のシャトルバス等でのPR映像の放映、日本語英語併記ガイドブックの作成を行った。

さらに、基盤整備として、下津浦エコパークトイレの全洋式化や道路沿いの看板(サンロード及び国道260号沿線、下津浦エコパーク)の英語併記タイプへの改修を行った。



南伊勢町の外国語版パンフレット

(5) 桑名市の取組

①桑名市の取組体制

(ア) ジュニアサミット推進課

平成27年10月27日(火)、岸田外務大臣よりジュニア・サミットが桑名市を主会場として開催されることが発表された。これを受けて、桑名市としてジュニア・サミットを成功させ、今後の国際化推進及び地域活性化につながる事業とするために、11月9日(月)付けて市長公室の中にジュニアサミット推進課を設置した。当初は課長以下3名体制で、12月17日(木)付けて課長以下13名体制へ増員された。

(イ) 庁内プロジェクトチーム

平成27年11月25日(水)には、全庁を挙げてジュニア・サミット関連事業に取り組むべく、関係各部署の部長や課長をメンバーとして、「庁内プロジェクトチーム」を設置した。

②ジュニア・サミット桑名市民会議

(ア) 市民会議の設立

ジュニア・サミット開催による効果を一過性のものとせず、市民一人ひとりが積極的にに関わり、全市民的な取組とするために、公民連携による地域主体の歓迎や交流を実践し、国内外の認知度向上と誘客の促進を進めることを目的とした「ジュニア・サミット桑名市民会議」を平成27年12月18日(金)に、産業・経済関係分野、観光関係分野等の団体や市民を構成員として設立した。

市民会議には、おもてなし部会、交流部会、発信部会、運営部会、危機管理部会、協賛部会、支援部会の7つの部会を設置し、受け入れ準備を行い、総会及び役員会、部会の会議等を合計31回開催した。

(イ) 取組内容

【おもてなし力向上研修】

接客、接遇に携わる桑名市内の商業事業者のグローバルおもてなし力を向上させるため、おもてなし力向上研修を3回実施し、接客英語や「和のおもてなし」スキルを学んだ。

【くわなし おもてなし大作戦】

ジュニア・サミット開催50日前にあたる平成28年3月5日(土)に、開催に向けた事前の環境整備の一環として、「くわなし おもてなし大作戦」と題したクリーンアップ作戦及び花いっぱい作戦を実施した。クリーンアップ作戦には、桑名市内の企業やボランティア等約500人が参加し、約200kgのゴミを回収した。また、ボーイスカウトやガールスカウトの子どもたち及びボランティアを中心として、桑名駅東口ロータリーに設置されている花壇、吉之丸コミュニティパーク内及び九華公園内の花壇にパンジーを植え、花壇を華やかに彩った。



クリーンアップ作戦



花いっぱい作戦

【安全対策に関する取組】

ジュニア・サミット開催期間中の救急・医療体制については、桑名医師会や桑名市消防本部の協力のもと、協議を重ね、連携を図った。また、開催前には、防犯や危機管理活動の一環として、桑名地域生活安全協会や桑名地区交通安全協会を中心とした啓発活動やPR活動も実施した。

さらに、主会場となるナガシマリゾート内のホテルでは、平成28年3月17日（木）に、テロを想定した消防訓練を実施し、ホテル従業員や消防署員ら約90人が、英語を交えての避難誘導訓練に参加した。

3月25日（金）には、近鉄益生駅において、「テロ対策パートナーシップ」の参画機関である桑名警察署、桑名市消防本部、三重県警察本部機動隊が合同で鉄道テロ対応訓練を実施し、約60人が参加して爆弾テロ、化学兵器テロを想定した避難誘導訓練を行った。



ホテルでの避難誘導訓練

【国際交流ツアー】

ジュニア・サミット開催前に桑名市の魅力やジュニア・サミットをPRし、海外での認知度向上とインバウンドのきっかけとなることを目的として、平成28年4月9日（土）、留学生と高校生の国際交流ツアーを実施した。来日している東海地区の留学生14人と桑名市在住の高校生11人が参加し、ジュニア・サミットの視察先であるNTN(株)先端技術研究所、なばなの里のほか、六華苑で日本文化の見学、体験を行い、交流を深めた。

この他にも、伊勢志摩サミット及びジュニア・サミットの応援企画として、鈴木知事や伊藤市長、県立桑名西高等学校調理部の生徒が参加したバレンタインイベントや、NPO法人による児童向けのイベントなども多数開催し、ジュニア・サミットの開催PRを行った。



六華苑で着物を来て桑名の千羽鶴の体験

③桑名エキシビジョン企画

(ア) 概要

ジュニア・サミットが桑名市を主会場として開催されることを記念して、ホテル花水木コンベンションホールにおいて、平成28年4月22日（金）から24日（日）まで桑名市独自のエキシビジョン企画を実施した。

このイベントは入場無料で行われ、桑名市の魅力をPRし、ポストジュニア・サミットとしてのインバウンドに繋がるような事業の創出をするとともに、国際交流の推進をすることを目的とした。

(イ) 内容

桑名を題材とした浮世絵の中に自分が入ったように画像合成されるクロマキー体験ブースや市内の企業等4社の環境取組を紹介する企業ブースを設けて“自然との共生”等により育まれてきた日本の文化や技術を紹介した。また、桑名市内の全ての中学校9校と木曾岬町の中学校1校で製作したジュニア・サミット参加者を歓迎する「WELCOME MOVIE」の上映も行った。

イベントステージとして、23日（土）に県内7校の工業高校から合計10チームが参加して、トーナメント方式でロボットのアメフト大会を実施した。また、ロボット競技大会の開会式、途中休憩、閉会式

の際には、ご当地映画「クハナ！」に登場するキッズバンドが演奏を披露し、会場を盛り上げた。

24日（日）には桑名市独自企画の国際交流事業「ジュニア・サミット in くわな 2016」を実施した。40名の高校生と28名の三重大学の留学生が、①桑名の水環境②桑名の食③桑名の文化④桑名の観光産業⑤桑名の国際化の各テーマに分かれ、英語で討議を行った。三重大学人文学部の朴恵淑教授が全体コーディネーターを務め、討議の内容をまとめた宣言文を伊藤市長に手渡した。

その後、「平和」、「希望」のシンボルであるオリーブをナガシマリゾート北側の農園エリアに記念植樹した。



ロボット競技大会



「桑名ジュニアサミットユース宣言」
提出後の記念撮影



記念植樹式

2 その他市町の取組

(1) 北勢地域

①四日市市

(ア) 歓迎装飾

平成27年7月より、サミット歓迎機運の醸成や県民・来県者への周知を図るため、ポスターの掲示、チラシの配布、懸垂幕の掲出、のぼり旗・カウントダウンボードの設置等を行った。

(イ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

サミット開催100日前ウィークの活動として、平成28年2月14日（日）、自治会連合会の協力のもと約150名が参加し、近鉄四日市駅前の清掃活動を行った。

また、3月12日（土）には鈴鹿川クリーン作戦として、地域住民や学校、企業、関係団体等、約1,500名が参加し鈴鹿川河川敷の清掃を、5月21日（土）には三菱化学グループ従業員と家族約1,000名が近隣住民と一緒に清掃するなど、市民の皆さんと一緒に取り組んだ。

b 花いっぱい作戦

ジュニア・サミット開催に先立ち、ジュニア・サミット参加者と同世代である県立四日市農芸高等学校の生徒が事前にプランターに植栽し、視察先である「そらんぼ四日市」の周辺に設置した。

また、5月2日（月）、9日（月）には近鉄四日市駅周辺にプランターを設置した。

(ウ) 「2016年ジュニア・サミットin三重」

平成28年4月23日（土）、討議に資する視察としてジュニア・サミット参加者が四日市公害と環境未来館を訪問した。環境保全と経済成長を両立し健全な環境を次世代に継承し持続的な発展をする方策について、討議テーマに基づき議論されるよう、四日市市が有する環境改善の歩みと技術について説明を行った。

(エ) 伊勢志摩サミット給食

サミット参加国の特色ある料理を通して、子どもたちが外国の食文化や世界について興味・関心を持つことができるよう、2月から5月の給食に参加国のメニューをとり入れた。各学校では、給食時間の校内放送や掲示板でメニューや参加国を紹介し、子どもたちがさまざまな食文化に触れる機会となった。



県立四日市農芸高等学校生による花いっぱい作戦



「四日市公害と環境未来館」を視察する
ジュニア・サミット参加者

②鈴鹿市

(ア) 歓迎装飾

平成27年7月より、サミット歓迎機運の醸成や県民・来県者への周知を図るため、ポスターの掲示、チラシの配布、懸垂幕の掲出、のぼり旗・カウントダウンボードの設置等を行った。

(イ) サミットPRイベントの開催

全県的にサミット開催機運を高めるため、開催100日前、50日前など、サミット節目日周辺などにおいて、第40回鈴鹿市植木まつりをはじめとするイベントで、サミットをPRした。各イベント会場ではポスターの掲示、のぼり旗の設置、ノベルティの配布などを実施した。

(ウ) おもてなし大作戦**a クリーンアップ作戦**

サミット開催100日前ウィークの活動として、平成28年2月14日（日）、国道23号沿いにある桜の森公園において、サミットののぼり旗を掲げ、自治会連合会が中心となって、地域の協力のもと公園内の清掃活動を行い機運を高めた。

また、サミットを契機に、日常的に行っている公民館のクリーンアップをバージョンアップし、国内外からの多くの訪問者に気持ちよく鈴鹿市を楽しんでいただくことを目的に、平成28年3月から5月にかけて、公民館周辺や近隣地区のクリーンアップを行った。本活動には、市内6公民館（白子・旭が丘・一ノ宮・郡山・清和・長太）が参加した。加えて、一部自治会等においても、地域でクリーンアップを行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月6日（水）から10日（日）まで、自治会連合会が主催して、市外からお越しの方へのおもてなしとして、近鉄白子駅前において花の設置を行った。設置作業中にはサミットののぼり旗を掲げるとともに、プランターにサミットのガーデンピックを掲げた。

また、4月から5月にかけて、市内12公民館において、多くのボランティアとともに、街道に面した敷地内に花苗を植えたり、植栽の剪定などの美化事業を行った。

さらに、4月下旬には、近鉄鈴鹿市駅及びAGF鈴鹿体育館（鈴鹿市立体育館）において、花壇の植栽などを行った。

(エ) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事で、ジュニア・サミット参加者が鈴鹿サーキットを訪問した。鈴鹿高等学校書道部による鈴鹿墨を用いた書道パフォーマンスの披露、伊勢形紙彫り体験や国際レーシングコースでの最新カート体験乗車などを通して、参加者に鈴鹿市の伝統工芸やモータースポーツといった魅力を体感いただいた。

(オ) 地域資源の発信

海外プレスツアーなどにおいて、鈴鹿市の伝統的工芸品である鈴鹿墨や伊勢形紙を活用した地域資源の魅力発信を行った。

サミット開催期間中には、鈴鹿市産品の日本酒、ハナビラタケなどが紹介・活用された。

(カ) 国際理解・交流の展開

サミット開催の効果を明日へつなぎ、次世代を担う子どもたちがサミット参加国についての理解や交流を深められるよう、合川小学校の児童が平成28年5月14日（土）に伊勢市で開催された子どもふるさ

とサミットに参加し、明生小学校が6月8日（水）に、若松小学校が6月13日（月）に、旭が丘小学校が9月28日（水）に国際理解・国際交流プログラムを実施した。

③亀山市

（ア）「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事でジュニア・サミット参加者が亀山市関宿を訪問した。関宿「関の山車」保存会の子どもたちによる祭り囃子の演奏や、関中学校生徒のメッセージ披露のほか、亀山紅茶のふるまいやボランティアによる関宿案内などが行われ、参加者は、日本の歴史文化に触れるとともに地域の人々との交流を深める機会となった。

（イ）おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

サミット開催100日前ウィークの活動として、平成28年2月14日（日）、JR亀山駅および亀山市文化会館周辺において、自治会連合会がのぼり旗を掲げて清掃活動を行い、サミット開催に向けての機運を高めた。

b 花いっぱい作戦

サミット開催50日前ウィークの活動として、平成28年4月6日（水）から、自治会連合会や婦人会連絡協議会等の協力を得て、ジュニア・サミット会場となる関宿をはじめ市内各所へプランターを設置し、飾花した。

（ウ）伊勢志摩サミット給食

サミットの開催に合わせ、市内の小中学校で「伊勢志摩サミット給食」を実施した。平成28年5月10日（火）に市内小学校および関中学校でサーモングラタンなどカナダの特産品を使った給食が、11日（水）に亀山中学校および中部中学校でスコッチエッグやフィッシュアンドチップスといったイギリスの伝統料理が登場した。校内放送でメニューの紹介も行い、子どもたちが外国の食文化や世界について興味や関心を持つ機会となった。

④いなべ市

（ア）おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年5月14日（土）に市職員による市内の清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月に市役所員弁庁舎前に花苗を植えたプランターを並べ、一部自治会の花壇にも花苗を植えた。

⑤木曾岬町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年2月28日(日)に町内のスポーツ少年団に加入する約100人により、町内全域を対象に清掃活動を実施した。

b 花いっぱい作戦

平成28年5月6日(金)に町役場庁舎駐車場にて町内の希望者に花苗を配付した。

⑥東員町

(ア) 「2016年ジュニア・サミットin三重」

ジュニア・サミット関係者に東員町をPRするため、平成28年4月22日(金)から28日(木)まで、「2016年ジュニア・サミットin三重」会場のホテルにおいて、東員町英語版パンフレットを配布した。

(イ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年4月24日(日)に町内の様々な団体が清掃活動を実施した。

b 花いっぱい作戦

- ・平成27年12月に東員花卉クラブの皆さんが、県民会議のシンボルマークをデザインした花壇を町役場に設置した。
- ・平成28年4月に町役場や公共施設等で飾花活動を実施した。

⑦菰野町

(ア) 役場庁舎と御在所ロープウェイ山上公園駅でのカウントダウン映像等投影

平成28年2月15日(月)から5月25日(水)まで、映像によって効果的に菰野町の魅力も含めたサミットの発信をするため、サミットカウントダウンの表示とともに、菰野町庁舎壁面では愛知県の3つの大学が制作した菰野町の観光ビデオ等を投影し、御在所ロープウェイ山上公園駅内では御在所岳の紹介映像等を投影することにより、市町からの機運の盛り上げに努めた。なお、投影映像の作成にあたっては旭電機株式会社の無償協力を得た。

(イ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年3月20日(日)に菰野町区長会主催で、町内一円において約10,000人の方々が参加し、「菰野町クリーン大作戦」を実施した。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月26日(火)から5月上旬にかけて、町内の各種団体、企業等の皆さんにより、町内一円においてサミット開催に伴う「花いっぱい作戦」を実施した。約3,000ポットの飾花を行い、三重

県を訪れる方々を歓迎した。

(ウ) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日(月)に実施された体験・交流行事でジュニア・サミット参加者が御在所岳を訪問した。ロープウェイでの空中散歩の後、山上で菰野町の豊かな自然を満喫していただいた。



役場庁舎でのカウントダウン映像等投影の様子



御在所岳を訪れたG7各国の高校生

⑧朝日町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

毎年5月末の日曜日は町内一斉「ごみゼロ運動日」としているが、平成28年度はサミット開催に伴い、5月15日(日)に「クリーンアップ作戦」として清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月から5月にかけて「花いっぱい作戦」を展開した。

町民の皆さんにも花に親しんでいただくため、縄生・朝日ヶ丘・柿・埋縄自治区の皆さんのご協力のもと、プランターに花を植え、町内各所に飾花した。

⑨川越町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

三重県にお越しいただく方々を、きれいな街でおもてなしするため、平成28年4月6日(水)に清掃活動を実施した。

b 花いっぱい作戦

三重県にお越しいただく方々を、おもてなしの心と歓迎の気持ちでお迎えするため、平成28年4月11日(月)に近鉄川越富洲原駅及び庁舎にプランターを設置した。

(2) 中勢地域

①津市

(ア) 特設サイトの作成

サミットの開催に向け、津市ホームページ内に平成27年7月17日（金）、英語と日本語で情報を発信するサミット関連特設サイトを新設し、津市の魅力や観光情報、アクセス情報、宿泊情報などを一元化して発信した。

(イ) 歓迎装飾

平成28年3月23日（水）から6月中旬まで、市内の商店街、商業者による歓迎ムードの盛り上げ、及び商店街への誘客・商業の活性化を図るため、市内の商店街組織7団体、経済団体4団体が連携し、各商店街や各店舗前及び津駅前へ歓迎フラッグやのぼり旗を設置した。

また、津駅前と立町商店街入り口に「伊勢志摩サミット歓迎」の大型看板をそれぞれ設置し、サミットの開催と津市の歓迎ムードを演出した。

のぼり旗とフラッグについては、「歓迎！伊勢志摩サミット」の文字やロゴマーク、各参加国の国旗を載せたデザインで日本語版と英語版の2種類を作成した。

(ウ) 「津なぎさまち」にかかる各種PR

a PR用展示パネルの設置

サミットの開催を契機として、津市の海の玄関口である「津なぎさまち」を広くPRするため、展示パネルを作成し、平成28年4月28日（木）から5月30日（月）まで、津なぎさまち内旅客船ターミナル交流広場に設置した。

b 花装飾おもてなし事業

平成28年3月から4月にかけて、サミットの開催に伴い、津なぎさまち内を花で装飾し、高速船を利用する来訪者へのおもてなしを実施した。

c G7大使館へのダイレクトメールの発送

平成28年4月14日（木）、中部国際空港からサミット会場への移動にあたっては、海上アクセスを利用し津なぎさまちを経由することが、早くて便利であることをG7大使館から関係機関等へ発信していただくために、各国大使宛に市長名の親書を発送した。

d 歓迎装飾

平成28年4月28日（木）から5月30日（月）まで、サミットの開催により、津なぎさまちを利用された方を歓迎するために、「津なぎさまち」⇔「臨港道路」⇔「フェニックス通り」に歓迎のぼり旗を、津なぎさまち内旅客船ターミナルに歓迎フラッグを設置した。

また、津なぎさまちにおける来訪者の歓迎機運を盛り上げるため、「レッツ津！夢みなとプラン推進協議会」が主体となった取組として、歓迎用横断幕を作成し、津なぎさまち内高速船アクセス港に設置した。

e 観光PRイベント及びおもてなし事業

平成28年5月23日（月）から27日（金）まで、津なぎさまちイメージアップ事業実行委員会と津市観光協会が連携し、津なぎさまち内旅客船ターミナル内にて、津の観光PR、津の物産販売及び甲冑武者隊によるおもてなしを行った。

f 清掃美化活動

平成28年5月20日（金）、サミットの開催にあたり、三重県への来訪者を気持ちよく歓迎するため、津なぎさまち及び周辺道路の清掃活動を実施した。

(工) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事で、ジュニア・サミット参加者が津市の一身田寺内町と専修寺を訪問した。

地元住民や津市長が参加者7名と県内高校生7名を出迎えた後、参加者たちは、地元の高田高等学校の生徒や専修寺からの説明を聴きながら、御影堂や庭園内の茶席「安楽庵」などを見学し、津市の歴史・文化に触れていただいた。

(オ) イベントにおけるPR

a 伊勢志摩サミット&お伊勢さん菓子博2017開催記念第6回スイーツフェスタ～桜フェア～

平成28年4月9日（土）、10日（日）に開催された同イベントにおいて、サミット開催記念企画として、各店がG7の国旗シールを貼付したスイーツを販売したほか、市内企業が販売する「伊勢志摩サミット応援商品」を集めた展示ブースを設置し、サミットの開催や応援商品をPRした。

b 第49回高虎楽座

平成28年4月16日（土）に開催された同イベントのステージでは、PRタイムを設け、司会からサミットの開催等をPRした。

また、会場内では、サミット歓迎ののぼり旗を多数掲出するとともに、「2016年ジュニア・サミットin三重」の開催をPRするため、体験・交流行事の訪問先となっている一身田寺内町と専修寺のPRも併せて行った。

c 第30回津市物産まつり

平成28年5月21日（土）に開催された同イベントにおいて、サミットの開催地を代表して、ミス伊勢志摩を招き、津クイーンや津っキャラとともにステージでサミットをPRするとともに、会場内で伊勢志摩サミット応援ソング「TIME」を流し、会場の雰囲気盛り上げた。

また、会場内に点在する「伊勢志摩サミット」等に関連した謎を解く「リアル謎解きアトラクション」を開催し、アトラクションの体験を通じて、親子連れをはじめとした多くの来場者にサミットの開催をPRした。

(カ) おもてなし大作戦**a クリーンアップ作戦**

平成28年2月10日（水）から17日（水）及び5月18日（水）から25日（水）に、サミットの開催にあたり、訪れる方をおもてなしの心でお迎えするため、市内公共施設のトイレの一斉清掃・点検を行った。

b 花いっぱい作戦

- 平成28年4月22日（金）に美里園芸福祉ボランティアの方々が美里地区内公共施設周辺及び国道163号線沿いにおいて、花苗を植えたプランターを設置した。
- 平成28年4月23日（土）に津市NPOサポートセンター主催で、津市まん中広場の花壇に花苗を植えた。
- 平成28年4月25日（月）に津市本庁舎の花壇等に花苗を植えた。
- 平成28年4月に津市自治会連合会10支部役員及び事務局で花苗を植えたプランターを本庁舎及び各総合支所へ設置した。



歓迎看板（津市立町商店街入り口）



おもてなし事業（津なぎさまち）

②松阪市**(ア) おもてなし大作戦****a クリーンアップ作戦**

- 平成28年2月17日（水）にサミット開催100日前イベントとして、松阪市自治会連合会や松阪市職員他60名が参加して、松阪駅周辺で清掃活動を行った。
- 平成28年5月22日（日）に嬉野自治会連合会や松阪市（嬉野地域振興局）職員他7,357名が参加して、嬉野地域振興局管内全域で清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

- 平成28年4月5日（火）にサミット開催50日前ウィークイベントとして、松阪市役所本庁舎前にて松阪市自治会連合会から松阪市長にプランターに植栽された花60苗が寄贈された。花苗は以後、市役所本庁舎に設置した。
- 平成28年4月19日（火）にクラギ文化ホールにて花1,022苗を市内公共施設20か所の職員に配付した。花苗は以後、各施設の玄関、敷地に設置した。

(イ) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事で、ジュニア・サミット参加者が松阪市の飯南町深野を訪問した。

参加者7名と県内高校生7名を松阪市長と柿野小学校6年生児童が出迎えた後、日本棚田百選の一つ「深野だんだん田」を見学し、地域特産品の「松阪茶」を味わったり、特産松阪牛肥育農家にて松阪牛と触れ合うなど、地元深野区の住民の歓迎・協力の下、食と農に関する伝統・文化を体験していただいた。



松阪牛に触れる参加者



機織をするベトナムの閣僚ら

(ウ) ベトナム社会主義共和国・松阪市友好交流会

平成28年5月27日（金）、松阪市の伝統文化である松阪木綿を由縁とする繋がりから、サミットのアウトリーチ会合に参加するベトナム社会主義共和国のマイ・ティエン・ズン政府官房長官ら閣僚5名を含む17名が松阪市を訪問した。

第一小学校児童の和太鼓演奏による歓迎セレモニーの後、松阪木綿の機織体験や着物体験、地域特産品「松阪茶」の茶席体験、松阪牛すき焼きの食事など、松阪市の文化と食を堪能していただき、友好交流を深めた。

(エ) 伊勢志摩サミット給食

児童・生徒等がサミット参加国の食文化や世界について興味や関心を持つとともに、日本や三重県の食文化を理解する機会とするため、松阪市内の学校給食にサミット参加国の料理を献立内容に取り入れた。サミット給食は、4月から5月にかけて、各給食センター及び単独調理場ごとに実施した。

(オ) 配偶者プログラムレセプション用和紙の紙漉き

サミットの配偶者プログラムにおいて、レセプション用ディスプレイの一部に使用するため、平成28年1月22日（金）に地元の伝統工芸品である「深野和紙」の紙漉きを行い、レセプション用和紙として提供した。

③多気町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

- ・平成28年2月14日（日）、町内観光施設従業員等が参加して、元丈の館周辺、ふれあいの館周辺、五桂池ふるさと村周辺でそれぞれ清掃活動を行った。

- ・平成28年5月15日（日）、毎年6月第一日曜日に町内一斉の「美化デー」として実施している清掃活動を、平成28年度はサミット開催に伴い、クリーンアップ作戦として各自治会地域住民が参加して各自治会で行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月23日（土）、24日（日）、五桂池ふるさと村、元丈の館、ふれあいの館で、それぞれの施設従業員及び一般参加者約500名が参加して飾花活動を行った。

(イ) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事で、ジュニア・サミット参加者が多気町五桂にある高校生レストラン「まごの店」を訪問した。

参加者7名と県内高校生7名を多気町長と町立西外城田保育園児が手作りの国旗を振って歓迎し、さらに県立特別支援学校玉城わかば学園の生徒による歓迎の太鼓演奏で出迎えた後、県立相可高等学校食物調理クラブの生徒達と調理体験等を通し、日本の料理、食文化に触れていただきながら、参加者全員で昼食を食べていただいた。

最後も多気町長、町立佐奈保育園児、県立特別支援学校玉城わかば学園の生徒たちが参加者を見送った。

④明和町

(ア) サミット応援太鼓演奏

サミット開催を盛り上げるため、「さいくう平安の杜」の正殿前で、地元の業平夢太鼓（なりひらゆめだいこ）が中心となり、平成28年3月19日（土）、県内5団体による太鼓演奏を行い、サミットを応援した。

(イ) 歓迎装飾

a ジュニア・サミット歓迎看板の設置

「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事の開催にあたり、平成28年4月13日（水）から25日（月）まで、歓迎機運の盛り上げや参加者への歓迎の意を込めて、会場となった「いつきのみや歴史体験館」近くの近鉄沿線に看板を設置した。

b サミット応援看板の設置

サミット開催を町を挙げて応援するとともに、電車利用者へのPRのため、平成28年4月27日（水）から5月27日（金）まで、近鉄斎宮駅近くの沿線に応援看板を設置した。

(ウ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年5月8日（日）、大淀ビーチクリーンとして清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

サミットの開催に合わせて、国史跡「斎宮跡」に来ていただく方を「花いっぱい」でおもてなししようと、平成28年4月17日（日）、地元ボランティアの「みどりの会」や「呉竹倶楽部」の皆さん、町内の小学生らが参加して、花の苗をプランターに移植し、500個のプランターを史跡周辺に並べた。

⑤大台町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年4月10日（日）、町内一斉のクリーンアップ作戦を実施した。当日は約2,300の方が参加し、サミット開催機運の醸成と町の美化に努めた。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月23日（土）から5月5日（木）、町内の各所にて活動されている景観保全ボランティアと連携し、花苗を植栽した。植栽した花は、サミット開催期間に丁度見頃を迎えた。

(イ) サミット特別給食

町の子どもたちに外国の食文化や世界について興味や関心を持ち、改めて日本や三重県の食文化を理解する機会とするため、平成28年5月23日（月）から27日（金）まで実施した。子どもたちからは、「7カ国の料理が食べられたのが嬉しい」「とても楽しみな1週間だった」などの感想が寄せられた。

(ウ) “水”を活かす

県内企業が連携し、サミット開催期間中、国際メディアセンターで世界各国のメディア等に対し、水質日本一に何度も認められた清流宮川の水「森の番人」で淹れたコーヒーを提供した。

(3) 南勢地域

①玉城町

(ア) おもてなし大作戦

a 田丸城跡クリーン作戦

毎年行っている田丸城跡クリーン作戦について、平成28年度は伊勢志摩サミット開催記念と銘打って5月22日（日）に実施した。早朝から、約60団体・750名超の方が参加し、清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月から5月にかけて、サミット開催に向けて町内各地に花の苗を植えた。

②度会町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年4月3日（日）、宮リバー度会パークで開催された春まつりにおいて清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月13日（水）から18日（月）まで、町職員だけでなく度会町商工会や長原地区の環境美化のため活動されている「長原環境美化部会」、同じく立岡地区で活動されている「立岡環境美化部会」とともに、町内各地へ数種類の花を設置する取組を行った。



花いっぱい作戦（長原地内）



花いっぱい作戦（立岡地内）

（イ）伊勢志摩サミット応援ソングの放送

平成28年5月24日（火）、伊勢志摩サミット公認サポーターの平井堅氏が制作した伊勢志摩サミット応援ソング「TIME」を、町内の小学校・中学校のサミット給食に合わせ、給食時間内に放送した。

③大紀町

（ア）PR看板の設置

平成28年1月26日（火）より、大紀町の大紀公園にサミットPR看板（縦2m16cm×横2m56cm）を設置し、サミット開催機運の醸成と情報発信に努めた。

（イ）おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年5月15日（日）に町民約3,000人が参加し、町内で清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

町内の花の会等の団体（野原公園花の会、野添花の会、野原公園花の会、さとの会、ひまわり会、三ヶ野花の会、大内山ピュアグリーン、めばえ）、保育園（ななほ保育園、大宮保育園、柏崎わかば保育園、錦あおぞら保育園、大内山保育園）、小中学校（大紀小学校、錦小学校、大宮小学校、七保小学校、大紀中学校、大宮中学校）、役場により、平成28年4月14日（木）から4月27日（水）にかけて、それぞれの地域の花壇やプランターに花苗の植栽を行った。

（ウ）伊勢志摩サミット開催記念遠足

サミットの会場である志摩観光ホテル周辺と、取材拠点の国際メディアセンターを大紀町の小学4年生から中学3年生が見学し、サミットの空気を肌で感じてもらうとともに、センター内に設置された政府広報展示スペースや三重情報館を見学することによって、日本の伝統文化や最先端技術、三重県の魅力に触れることを目的として、平成28年5月30日（月）、31日（火）、6月6日（月）に伊勢志摩サミッ

ト開催記念遠足を行った。

(4) 伊賀地域

①名張市

(ア) おもてなし大作戦

a 「名張クリーン大作戦2016 & 名張しぜん環境再発見サミット」

例年実施している市内一斉の清掃行動「名張クリーン大作戦」を、県民会議のおもてなし大作戦に位置づけ、平成28年5月15日（日）、市民（地域組織）や住民団体・企業・行政など約75団体6,000人が参加し、市内一斉の清掃行動を実施した。

また、同日に開催したイベント「名張しぜん環境再発見サミット」では、名張の美しい自然環境を再発見する機会として、ギフチョウやオオサンショウウオなど名張市特有の自然等に触れ合う催しの他、大阪方面から来る電車に向かって、花いっぱい田園地から手を振り、三重県を訪れる人々におもてなしの心を表現した。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月には、市内各地において、各団体により、2,000個の花苗の植栽を実施した。

(イ) 伊勢志摩サミット応援ソング映像の放送

平成28年5月25日（水）から27日（金）まで、名張市出身のシンガーソングライター平井堅氏が歌う伊勢志摩サミット応援ソング「TIME」のPR映像を、市庁舎1階ロビーにカウントダウンボードとともに設置し、市民へサミットの周知を行った。



伊勢志摩サミット応援ソング映像の放送

名張クリーン大作戦2016 & 名張しぜん環境再発見サミット

②伊賀市

(ア) 「2016年ジュニア・サミットin三重」体験・交流行事

平成28年4月25日（月）に実施された体験・交流行事で、ジュニア・サミット参加者が伊賀流忍者博物館を訪問した。忍者衣装に着替えて伊賀上野城の高石垣の見学や上野公園の散策をした後、忍者ショーの見学や手裏剣打ちを体験した。

(イ) 世界一大きな絵 2020

平成27年11月から12月にかけて、世界各国で描かれた「世界一大きな絵」を集めるプロジェクトの一環で、伊賀市の青山小学校3、4年生が協力しあい、5メートル四方の大きな絵（芭蕉や忍者、俳聖殿、児童たちの似顔絵など）を制作した。完成した作品は、配偶者プログラムにおいて、ミキモト真珠島にて披露された。

(ウ) おもてなし大作戦**a クリーンアップ作戦**

平成28年2月16日（火）及び4月6日（水）に市内各地で職員による清掃活動を行った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月に市庁舎玄関等で飾花活動を行った。

(5) 東紀州地域**①尾鷲市****(ア) イベントにおけるPR****a 第30回全国尾鷲節コンクール**

平成27年11月7日（土）、8日（日）、サミット開催200日前ウィークイベントに位置づけて開催した。全国尾鷲節コンクールの大会ポスターへサミット開催の告知を記載するとともに、鈴木知事のPRスピーチや本大会優勝者へのサミット特別賞の協賛など、サミットのPRを行った。

b 尾鷲イタダキ市

サミット開催50日前ウィークイベントとして、平成28年4月2日（土）、朝市「尾鷲イタダキ市」でサミットPRグッズ（クリアファイル・絵ハガキ等）を配布し、サミットのPRを行った。

c 第4回尾鷲旬のコツまみバル

サミット直前の平成28年5月21日（土）に開催された「尾鷲旬のコツまみバル」の本部会場にて、伊勢志摩サミット応援ソング「TIME」をBGMとして流すなどサミットのPRを行った。

(イ) おもてなし大作戦**a クリーンアップ作戦**

- ・平成28年2月14日（日）、尾鷲市自治会連合会が中心となり、約300人の参加者が市内の各所で清掃活動を行った。
- ・平成28年5月18日（水）、例年およそ40人規模で行っている市職員による「まちなか清掃」を、おもてなし大作戦に賛同する形でサミット開催に合わせ実施した。例年の倍以上の約100人が参加し、市役所周辺主要道路の清掃を行った。

b 花いっぱい作戦

- ・平成28年4月6日（水）、尾鷲市自治会連合会の約20人が花苗100苗をプランターに植え付け、市役所前ロータリー及び尾鷲駅前にそれぞれプランター10個を設置した。
- ・平成28年4月24日（日）、例年行っているグリーンクラブや地域3自治会との花植えをサミットに合わせて前倒しして実施した。約30人が参加し、紀望通りや銀杏通り、北川右岸、中央公民館等に970苗（マリーゴールド、ペチュニア、金魚草）を植え付けた。
- ・平成28年4月30日（土）、約10人が参加して尾鷲市中村町地内（銀杏通り）の花壇植え替えを行い、花苗250苗を植え付けた。

(ウ) サミット給食

サミットにちなんで、サミット参加国等の料理を平成28年4月から6月にかけて尾鷲市内の学校給食に取り入れた。

(エ) 子どもふるさとサミット

平成28年5月14日（土）に伊勢市で開催された子どもふるさとサミットに輪内中学校の生徒が参加し、尾鷲市が姉妹提携するカナダのプリンス・ルパート市の交流について発表するため、当時、同市を訪れた派遣団員からの聴き取り学習や、調べ学習に取り組んだ。

(オ) 尾鷲防犯特別パトロール

サミット開催に伴うテロ等、異常事態により地域住民の安全が脅かされることのないよう、テロ対策尾鷲・紀北地区パートナーシップの構成団体である尾鷲地区防犯委員会が、サミット開催直前の平成28年5月25日（水）に沿岸部を中心としたパトロール活動を実施した。

(カ) サミットにおける尾鷲ヒノキの活用

首脳会議で使用されたテーブル等や椅子が、地域の行政を含めた林業・木材関係者の団体である「尾鷲林政推進協議会」において確保した「F S C認証尾鷲ヒノキ材」によって作製された。

また、シェルパ用机、三角プレート、ペン皿、コースター、曲げわっぱ、杉風荘のテーブルセット、国際メディアセンターのダイニング内装材、舞台に尾鷲ヒノキが使われ、すべての材料、製品納入に至るコーディネートの部分で尾鷲市・紀北町の木材関連業者、森林組合おわせ、尾鷲市、紀北町が一丸となって本事業に取り組み、その中でも森林組合おわせは、まとめ役として重要な役割を担った。

②熊野市

(ア) サミット歓迎機運の醸成

サミット歓迎の機運を醸成するため、開催までの節目日（200日前、100日前等）にあわせ、国道42号に面した市管理「道路電光掲示板」にサミット開催バナーを掲出した。

(イ) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年5月20日（金）にサミット直前クリーンアップ大作戦を世界遺産である七里御浜で行い、

清掃活動を通じサミットの機運の醸成を図った。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月1日（金）から5月27日（金）まで、「オープンガーデン熊野2016」を実施した。市内18ヵ所のご家庭および事業所のご協力を得て庭を公開していただき、開催期間中延べ1万人の方にお越しいただいた。

4月13日（水）から16日（土）にかけて、松原花華会、心のオアシス・桃源郷、鬼ヶ城センターが、それぞれの地域等の花壇やプランターに花を植える活動を行い、サミットに向けた開催機運の醸成を図った。

(ウ) イベントにおけるPR

平成28年5月22日（日）に開催されたオール熊野世界No. 1 フェスティバルにおいて、サミット応援フェアとしてG7の国にちなんだスイーツ等を販売しサミット開催をPRした。

(エ) サミット参加国との交流

熊野市と姉妹都市提携を結んでいるイタリア・ソレント市の公式使節団6名が、平成28年5月12日（木）から14日（金）まで熊野市を訪問し、姉妹都市提携継続の約束の調印や市民との交流を深めた。



国道42号 電光掲示板



ソレント使節団植樹

③紀北町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

- 平成28年2月14日（日）、紀北町連合自治会が中心となり、世界遺産熊野古道「馬越峠」及びその周辺の清掃活動を実施した。
- 平成28年5月22日（日）、海山連合自治会が中心となり、「クリーンクリーンデー」と称して例年実施している地域内一斉清掃活動をクリーンアップ作戦の一環として実施した。

b 花いっぱい作戦

- 平成28年4月6日（水）、紀北町連合自治会により、プランターへの飾花活動が行われ、役場庁舎に設置した。
- 平成28年4月14日（木）、紀北町役場職員互助会と環境美化ボランティア団体「フラワーフレンド

サークル」により、役場庁舎前の花壇への飾花活動を実施した。

(イ) 紀北町のPR活動

a サミットでの農林水産物の活用

サミットにおいて、紀北町の様々な農林水産物が首脳会合や国際メディアセンターダイニングで使用され、各国首脳や国外のメディア関係者の方々に、称賛を得ることができた。

首脳会議で使用されたテーブル等や椅子は、地元「F S C認証材の尾鷲ヒノキ」によって作製されたほか、各国首脳の部屋には、「200%トマトジュース」が備え付けられた。

国際メディアセンターでは、紀北町で水揚げされた「伊勢えび」や「アワビ」等の海産物が提供されるとともに、「アオサのり」「卵」「菌床椎茸」等が様々な料理に形を変え、多くの来賓をお出迎えすることができた。

b 海外プレスツアーでのPR活動

平成28年2月17日（水）、県民会議主催の第2回プレスツアーでは、熊野市の鬼ヶ城センターで交流会が行われ、町長も出席した中、特産品のPR活動等を実施した。

(ウ) サミット給食の実施

サミットの開催にあたり、子どもたちがサミット参加国に興味や関心を持つ機会として、平成28年4月から5月にかけて、町内の幼稚園、小学校、中学校において、サミット給食を実施した。



世界遺産熊野古道「馬越峠」及び
周辺の清掃活動風景



プレスツアーでのPR活動風景

④御浜町

(ア) おもてなし大作戦

a 花いっぱい作戦

平成28年4月12日（火）、サミット歓迎の機運醸成のため、地域住民の方々と共に花いっぱい作戦を実施し、庁舎前の花壇に2,000株を植栽した。サミット期間中はのぼり旗や名札も設置し、おもてなしの心と美しい花々での歓迎に努めた。

⑤紀宝町

(ア) おもてなし大作戦

a クリーンアップ作戦

平成28年5月18日(水)、世界遺産にも登録されており、町内の観光スポットとなっている七里御浜の清掃活動を紀宝町職員労働組合が主体となって実施し、サミット関係者など来町される方々を歓迎した。

b 花いっぱい作戦

平成28年4月12日(火)、13日(水)、紀宝町が主体となって町内2箇所に美しい花々を植え、サミット歓迎機運の醸成やサミット関係者の歓迎を図った。

【参考：各市町におけるサミットに関連する会議等の設置状況】

市町名	名称等	
津市	H27.6.15	「津市伊勢志摩サミット関連情報連絡調整会議」を設置。
四日市市	H27.8.20	「伊勢志摩サミット庁内検討チーム」を設置。
伊勢市	H27.6.15	「伊勢志摩サミット伊勢市庁内調整会議」を設置。その後、庁内調整会議の下に、「おもてなし部会」、「情報発信部会」、「安全対策推進部会」の3つの部会を設置。
	H27.7.31	「伊勢志摩サミット伊勢おもてなし会議」を設置。
松阪市	H27.7.24	「伊勢志摩サミット松阪市庁内連絡調整会議」を設置。
桑名市	H27.11.9	「ジュニアサミット推進課」を設置。
	H27.11.25	庁内プロジェクトチームを設置。
	H27.12.18	「ジュニア・サミット桑名市民会議」を設置。市民会議の下に、「おもてなし部会」「交流部会」「運営部会」「発信部会」「危機管理部会」「協賛部会」「支援部会」の7つの部会を設置。
鳥羽市	H27.7.13	「～真珠養殖発祥のまち・海女が日本一多いまち～伊勢志摩サミット鳥羽おもてなし会議」を設置。同実行委員会を設置(9/30)。
熊野市	H27.6.22	庁内に熊野市「伊勢志摩サミット」推進会議を設置。
志摩市	H27.6.19	庁内に「伊勢志摩サミット推進本部」を設置。
	H27.6.24	「企画部サミット推進室」を設置。
	H27.7.3	「伊勢志摩サミット市民会議～光輝く志摩づくり会議～」を設置。その後、市民会議の下に、「まちの雰囲気づくり部会」、「ひらかれた観光地づくり部会」、「未来に続く志摩づくり部会」の3つの部会を設置(7/31)。「伊勢志摩サミット開催100日前記念イベント実行委員会」を設置(12/21)。
明和町	H27.8.1	「伊勢志摩サミット連絡調整会議」を設置。
南伊勢町	H27.6.10	「伊勢志摩サミット南伊勢町プロジェクト委員会」を設置。
	H27.8.3	庁内に「伊勢志摩サミット南伊勢町庁内会議」を設置。
	H27.10.7	「伊勢志摩サミット南伊勢町民会議」を設置。町民会議の下に、「開催支援・おもてなし部会」、「明日へつなぐ・南伊勢の発信部会」の2つの部会を設置(12/16)。

第7章 広域の連携

1 東海三県一市の連携体制 (三県一市：三重県、愛知県、岐阜県、名古屋市)

(1) 伊勢志摩サミット東海三県一市担当課長会議

平成27年9月9日(水)、岐阜県多治見市において「東海三県一市知事市長会議」が開催され、「伊勢志摩サミットについて」を議題に、行政の役割や三県一市の連携する取組を協議するとともに、情報共有や取組について話し合う場として「伊勢志摩サミット東海三県一市担当課長会議」を設置することとなった。

この決定を受け、10月8日(木)に「第一回伊勢志摩サミット東海三県一市担当課長会議」を開催した。

同会議は、サミット開催までに3回開催した。三県一市での国への提言の結果、国際メディアセンター・アネックスにおいて、東海地域の強みであるものづくりに関する情報発信が行われたこと等の成果を確認し、平成28年7月11日(月)に開催した第4回会議をもって解散した。

【国への提言活動】

同会議の検討結果を踏まえ、三県一市では、国に対し、①財政支援スキームの構築、②日本の技術力を集積した展示館と東海ものづくり最新技術PR拠点の設置、③中部国際空港の整備、④国際会議の開催、を要望した。

特に①に関しては、外務省において、「主要国首脳会議開催準備環境整備費補助金」が創設されるなど、開催県である三重県の財政負担が一定程度軽減されることとなった。

また、海外メディアに対し東海地域の魅力を発信するため、国際メディアセンターの政府広報展示スペースでの展示コンテンツについて、外務省に提案を行った。



国への要望(外務省)

【連携した取組】

東海地域の魅力を発信するため、平成28年2月13日(土)、14日(日)に、東京都世田谷区の子玉川ライズで開催された「三重県フェア」において、三県一市のPRブースを設置し、首都圏における東海地域の観光PRを実施した。

また、3月14日(月)に開催された昇龍道プロジェクトによる「第2回昇龍道日本銘酒街道推進会議」(共催：伊勢志摩サミット三重県民会議、伊勢志摩サミット東海会議)において、三県一市の観光PRのほか、関係閣僚会合開催自治体のうち、近隣県である富山県、長野県と連携し、観光PRを実施した。

加えて、三県一市の呼びかけにより、ボランティアによる伊勢湾流域圏の清掃活動である「伊勢湾 森・川・海のクリーンアップ大作戦」を、サミット開催50日前ウィークに併せて実施することで、東海地域のサミット開催機運の醸成を図った。この活動には東海地域の10団体、1,487人に参加していただいた。



二子玉川ライズでの「三重県フェア」



第2回昇龍道日本銘酒街道推進会議

(2) 伊勢志摩サミット東海会議

サミットは、開催県である三重県はもとより、東海地域を海外に知っていただく絶好の機会である。また、東海地域は、「ものづくり」の一大拠点であり、観光資源も豊富であるため、この機会を捉え、最先端技術や豊かな自然、伝統・文化など観光の魅力を世界に向け発信することを目的に、平成27年11月5日（木）、官民一体となった「伊勢志摩サミット東海会議」が設立された。

構成団体は、会員として、三重県、愛知県、名古屋市の行政機関、中部経済連合会をはじめとする経済団体や運輸業界、観光協会など合計24団体となった。会長は中部経済連合会会長、副会長は三重県及び愛知県副知事、名古屋市副市長が務めたほか、岐阜県がオブザーバーとして参加した（事務局は中部経済連合会）。設立総会では、訪日サミット関係者に対し、おもてなしの心で歓迎や案内を行うとともに、ものづくりや観光など東海地域の情報を発信し、地域の更なる活性化につなげていくために、様々な事業を実施することが決定した。

また、11月24日（火）に第一回役員会、第一回企画委員会を開催し、同委員会において、東海会議の具体的な事業の検討を行った。伊勢志摩サミット閉幕後、平成28年6月27日（月）に第2回総会及び役員会を実施し、東海会議は解散した。

なお、東海会議の事業のうち、おもてなし事業は、官民折半で予算を拠出しており、地域情報PR事業、PRツール作成事業は、東海会議が募った寄附金から拠出された。



伊勢志摩サミット東海会議設立総会

【事業内容】

①おもてなし事業

サミット開催機運の醸成やサミット関係者の歓迎のため、中部国際空港やJR及び近鉄名古屋駅、名鉄特急μスカイ内でのバナーやデジタルサイネージを活用した歓迎装飾を実施した。歓迎装飾の実施にあたり、東海地域の特徴を表すキーアイコンやキービジュアルを作成し、装飾に使用した。

また、節目となるサミット開催150日前には中部国際空港に、100日前にはJR名古屋駅にカウントダウンボードを設置し、除幕式を行った。

さらに、サミット開催直前となる5月23日（月）から、中部国際空港、JR名古屋駅に、主に海外メディ

アを対象としたおもてなしブースを設置した。当ブースでは、伊勢志摩サミット三重県民会議の外国語案内ボランティアと連携し、伊勢志摩地域への交通案内を行ったほか、伝統文化、先端技術の展示や体験など、東海地域の魅力発信を行った。おもてなしブースには、6日間で国内外から約5,000人の来場者があった。



カウントダウンボード除幕式（名古屋駅）



キービジュアル（中部国際空港）



おもてなしブースでの書道体験



おもてなしブース外観（中部国際空港）

②地域情報PR事業及びPRツール作成事業

東海地域の魅力を海外に発信するため、伊勢神宮の御用材を使用した「森香炉」を作成したほか、名古屋市伝統工芸である「有松・鳴海絞」のスカーフを作成した。また、酒処である東海地域をPRするため、昇龍道地域のお酒を用意し、香炉、スカーフとともにおもてなしブースで海外プレスに配布した。

また、外国語ガイドブック「Central Japan」や東海地域の魅力を紹介したDVD「Tradition and Innovation」を作成し、各所でサミット関係者に配布・PRした。

国際メディアセンター・アネックスに政府が設置した広報展示スペースに、東海地域のものづくりの原点である「茶運び人形」を展示・実演し、伝統技術がものづくりの最先端技術につながっていることをPRした。



おもてなしブースでの記念品配布

2 関係閣僚会合開催自治体との連携体制

伊勢志摩サミット開催に合せて、過去国内最多の10の関係閣僚会合が開催されることとなった。

当初は、三重県と神戸市をはじめとする閣僚会合開催自治体で、各々に随時意見交換等を行っていた。平成28年1月から2月にかけて、東京都内にある11館のアンテナショップを巡る伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催県アンテナショップスタンプラリーを実施したところ、伊勢志摩サミットと関係閣僚会合が開催される自治体（茨城県、長野県、富山県、香川県、仙台市、新潟市、神戸市、倉敷市、広島市、北九州市）間で情報共有や連携したPRができないかという声が各自治体間で次第に大きくなった。

このため、三重県と関係閣僚会合開催10県市が全体で連携し、情報共有や開催地の魅力発信をより効果的にPRすること等を目的に、伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体連絡会議（事務局：三重県）を設立することとなり、平成28年1月28日（木）に第1回会議を志摩市で開催した。

会議の中では、主に、ホームページでの相互リンク、各都市が連携したプレスツアーの実施や、各地域で実施するイベントでの相互PRの実施、開催自治体の知事・市長による連携した取組等の企画案について検討し、取り組んだ。

各開催自治体で実施するイベントでの相互PRでは、会議・会合のポスター掲示や、ノベルティ・パンフレットの配布を行った。三重県では、2月21日（日）に開催した「美し国三重市町対抗駅伝」や、3月6日（日）に開催した「三重もんづくし！うまいもん おもろいもん！」（大阪ガスショールーム hu+g MUSEUM）等のイベントで相互PRを行い、4月から6月にかけては、イオンリテール株式会社により開催された「みえ・伊勢志摩フェア」においても、各地域の旗艦店において、サミット及び関係閣僚会合開催地のPRを行った。

また、半年間に及ぶサミットイヤーの皮切りとなるG7広島外相会合の1か月前となる3月10日（木）には、伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体連絡会議の構成自治体の首長ら（三重県知事、茨城県知事、富山県知事、香川県知事、新潟市長、倉敷市長、北九州市長等）が、各会議・会合の成功に向けて、安倍総理を表敬訪問した。



首相官邸での表敬訪問



安倍総理と面談する知事

平成28年7月29日（金）に第2回会議を開催し、各県市での開催結果や取組状況の報告とともに、会議の実績・成果を確認し、解散した。

【関係閣僚会合一覧】

	関係閣僚会合	開催日程	開催地
1	外務大臣会合	平成28年4月10日(日)、11日(月)	広島県広島市
2	農業大臣会合	平成28年4月23日(土)、24日(日)	新潟県新潟市
3	情報通信大臣会合	平成28年4月29日(金)、30日(土)	香川県高松市
4	エネルギー大臣会合	平成28年5月1日(日)、2日(月)	福岡県北九州市
5	教育大臣会合	平成28年5月14日(土)、15日(日)	岡山県倉敷市
6	環境大臣会合	平成28年5月15日(日)、16日(月)	富山県富山市
7	科学技術大臣会合	平成28年5月15日(日)～17日(火)	茨城県つくば市
8	財務大臣・中央銀行総裁会議	平成28年5月20日(金)、21日(土)	宮城県仙台市
9	保健大臣会合	平成28年9月11日(日)、12日(月)	兵庫県神戸市
10	交通大臣会合	平成28年9月24日(土)、25日(日)	長野県軽井沢町

3 ヒロシマ・ナガサキ原爆展

三重県及び伊勢市では、伊勢志摩サミットの開催に合わせて、広島市及び長崎市が主催し開催する「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」に共催した。

この原爆展は、サミット参加者、関係者をはじめ県民の皆さんに原爆被害の実相と悲惨さを伝えるとともに、核兵器廃絶と世界の恒久平和祈念のメッセージを広く国内外に発信することを目的として、下記の内容で開催されたものである。

原爆犠牲者の遺品や当時を偲ばせる実物資料、写真パネルなどの展示のほか、被爆者自身による体験証言や体験記の朗読会も実施した。

なお、開催初日には、オープニングセレモニーと被爆樹木二世の苗木授与式を行った。

(1) 開催期間及び会場

- ・平成28年5月22日(日)から5月29日(日)まで(8日間)9時から17時まで
- ・伊勢市観光文化会館 2階展示室
- ・原爆犠牲者の遺品ほか実物資料



会場の様子



説明を受ける知事

- ・写真パネル展示
- ・被爆体験証言及び被爆体験記朗読会
 - 5月28日(土) 伊勢市観光文化会館 4階会議室
 - 証言、朗読会ともそれぞれ午前午後各1回の開催

【被爆体験証言】

山本 定男氏（広島での被爆者）による講話

【被爆体験記朗読会】

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

被爆体験記朗読ボランティア 被爆体験を語り継ぐ「永遠の会」による朗読



被爆体験証言



被爆体験記朗読会

(2) 関連イベント

○原爆展オープニングセレモニー

平成28年5月22日(日) 9時から 会場前にてテープカット

○被爆樹木二世の苗木授与式

同日、オープニングセレモニー終了後

広島市より被爆アオギリ、長崎市より被爆クスノキ二世の苗木を授与

○主な出席者

広島市長、長崎市長、三重県知事、三重県議会議長、伊勢市長、伊勢市議会議長



オープニングセレモニーでのテープカット



被爆樹木二世の苗木授与式

(3) 来場者数等

①原爆展来場者数

2,992人（8日間の延べ人数）

○主な海外関係来訪者

ドミニク＝ジョルジュ・マロ氏(欧州理事会儀典長)

ニコラ・ドゥ＝ラ＝グランヴィル氏(欧州委員会儀典長)

ジョナサン・ハットウェル氏(駐日欧州連合代表部副代表・公使)

グレアム・ネルソン氏(駐日英国領事・日韓台越領事ディレクター)

②被爆体験証言参加者数

195人（2回の開催の合計者数）

③被爆体験記朗読会参加者数

103人（2回の開催の合計者数）



会場で説明を受けるEU高官

(4) 主催者等

①原爆展

主催 広島市、長崎市

共催 三重県、伊勢市

協力 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

②被爆樹木二世苗木授与式

主催 伊勢市